

2017年5月1日

みずほディーラーズアイ (2017年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 108.00 ~ 115.00

国際為替部 為替営業第二チーム 高田 裕

先月の為替相場

先月のドル/円相場は往って来いの展開。111円台で開始後、第2週に108円台まで下落するも第3週からは反発し月末は111円台で越月した。

月初3日、111円台半ばでオープンしたドル/円は、本邦実需筋によるドル買いなどを背景に111.59円まで上伸。その後米長期金利が低下するとストップ高を巻き込みながら110円台後半まで値を下げた。4日は110円台半ばで揉み合い推移したが、5日は米経済指標の強弱に応じて111円台前半まで上昇後、110円台半ばまで下落した。翌6日は良好な米雇用関連指標から111円台前半まで反発。7日は米軍がシリアに向けてミサイル発射との報道にリスク回避の円買いが強まり、110.14円まで急落。その後米3月雇用統計が市場予想比弱い結果となったものの、ダドリーNY連銀総裁のタカ派発言などが意識され米金利が上昇すると111円台前半で越週した。

第2週10日、ドル/円は底堅い日経平均株価を背景に111.59円をつけたが、米国の原子力空母を朝鮮半島周辺に派遣との報道が伝わると、地政学リスクの高まりから、110円台後半まで下落した。11日は米10年債利回りが2.3%を下抜けると109円台後半まで急落。さらに12日にトランプ米大統領によるドル高けん制発言が報じられ109円ちょうどを下抜けると、13日には108円台後半まで値を下げた。その後米4月ミシガン大学消費者信頼感指数の良好な結果を好感して109円台を回復するも、14日は冴えない米経済指標から108.55円をつけ、同水準で越週した。

第3週17日は、前週末の北朝鮮によるミサイル発射実験を受けた地政学リスクの高まりを背景にドル/円は108.13円と月安値をつけた。しかし、その後、ムニューシン米財務長官が長期的にはドル高を志向していると発言すると109円台を回復した。18～19日にかけては108円台を中心に揉み合い推移。翌20日は米財務長官の税制改革への意思表示などがドル買い材料とされ、109.48円まで続伸した。21日は週末の仏大統領選を控えた様子見姿勢が強まり109円台で動意が薄い展開となった。

第4週24日、仏大統領選挙結果を受けて110円台前半で底堅く推移。翌25日に109.60円をつけるも、北朝鮮による核実験は行われず、リスク回避姿勢が後退する動きに110円台半ばまで上昇。さらにトランプ政権の税制改革への期待感などを背景にドル買いが強まり111円台を回復すると、26日には月高値となる111.78円まで値を上げた。その後に発表された税制改革案は目新しさもなく110円台後半まで下落。27日から月末は動意に乏しく推移し、結局111円台半ばで越月している。

今月の見通し

今月のドル/円相場は底堅い展開を予想する。先月はシリアや北朝鮮を巡る地政学リスクへの警戒感やトランプ大統領によるドル高けん制発言を背景に月央にかけて一時円買い優勢の地合いとなった。いずれも本質的な解決には至っていないものの、一旦は緊迫感が後退しつつあり、今月は米金融政策を意識した相場展開が予想される。かかる状況下、FRBの利上げ材料となる経済指標や要人発言を契機にドルがサポートされる値動きとだろう。

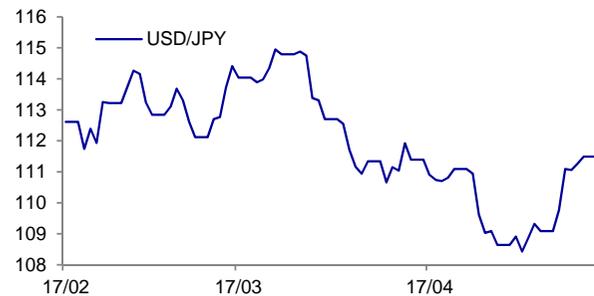
まず米金融政策については、2～3日にFOMCが予定されている。今回は現行政策が維持される見通しであり、またイエレンFRB議長による定例会見の予定はない。声明文のニュアンスの変更などから6月以降の利上げペースを読み取ることが焦点とだろう。足許の金利先物市場では6月の利上げ確率が7割程度まで上昇している。5月声明文における家計や設備投資などの景気の現状認識やインフレ見通しがタカ派的な内容となれば素直に米金利が上昇し、ドル/円はサポートされる展開が予想される。ただし反対に今後の利上げに慎重な姿勢が示されるようならば、一旦ポジション調整の動きが強まる恐れがありドルの急落には留意したい。その後、24日発表のFOMC議事要旨(5月2～3日分)で議論の詳細を確認することとだろう。前回3月のFOMCで本年後半から開始するといわれている米国債や住宅ローン担保証券の再投資の縮小および停止について、具体的な時期、対象資産などの発言が確認できれば、米金利の上昇が意識されドル/円は底堅く推移するかも知れない。

また利上げの前提としてイエレン議長が「非常に健全」であると評価する米国景気を確認する上では、1日の4月ISM製造業景況指数、5日の4月雇用統計、12日の4月小売売上高、4月消費者物価指数(CPI)、26日の1～3月期GDPは注目である。特に雇用統計については、前回3月の雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比+98千人と冴えない結果となったものの、失業率は4.5%へ低下した。完全雇用に近いというの評価のもと、予想通りプラスとなった平均時給伸び率がリスクセンチメントを維持した経緯があり、今回の発表分が良好な内容となればドル買い優勢の展開とだろう。

ただし、堅調な米国経済やFRBの利上げ見通しにもかかわらず、足許、地政学リスクなどを背景に米長期金利は2.3%レベルと上値が重い。北朝鮮やシリア情勢などで再度緊張が高まる場面では、質への逃避から米国債が買われ、米金利の低下とともにドル/円が急落するシナリオにも注意が必要とだろう。

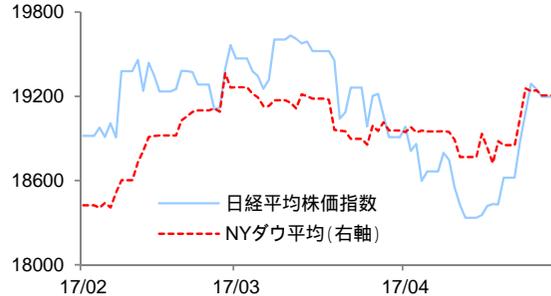
為替の動き

(資料) ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	ISM製造業景況指数	3月	57.2	57.2	57.7
4/5	ISM非製造業景況指数	3月	57.0	55.2	57.6
4/7	非農業部門雇用者数変化	3月	180K	98K	235K
4/7	失業率	3月	4.7%	4.5%	4.7%
4/7	平均時給(前月比)	3月	0.2%	0.2%	0.2%
4/14	消費者物価指数(前年比)	3月	2.6%	2.4%	2.7%
4/14	小売売上高(前月比)	3月	-0.2%	-0.2%	0.1%
4/21	中古住宅販売件数	3月	5.60M	5.71M	5.48M
4/27	耐久財受注(前月比)	3月	1.3%	0.7%	1.8%
4/28	GDP(前期比年率)	1Q	1.0%	0.7%	2.1%

カスタマディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

ドル・ブル (5名、108.00~116.00、中心110.00~115.00)

加藤	110.00 ~ 115.00	第2のブラザ合意の議論はトランプノミクスが実現し、国防費の増額や大規模減税が実行に移されていない以上時期尚早。ただし、政府としても目立った円安はTPPの面からも対米国の面からも喜ばしくない。結局は円のじり安がいいということになる。
高田	108.00 ~ 115.00	FRBの利上げ材料となる米経済指標や要人発言を契機にドル/円がサポートされる展開を予想する。地政学リスクが高まり「質」への逃避から米国債が買われドル円が急落する場面もあり得ようが一時的であろう。
佐藤	110.00 ~ 116.00	仏大統領選でマクロン氏当選の可能性が高まったことや北朝鮮に係る地政学リスクの緩和を背景に円は調整売りが入りやすい。米経済指標次第ではあるものの、外部環境の改善を背景に6月FOMCでの利上げ期待が高まりやすく、底堅い展開を予想する。
下山	109.00 ~ 116.00	米企業決算の強さにも現れているように、中長期的に見る米国のファンダメンタルズは強そう。欧米の政治リスクも後退している印象であり、リスクセンチメントの改善も背景にドル円は上昇する展開を予想。
鶴田	110.00 ~ 115.00	仏大統領選を巡る欧州政治不安が後退しつつある中で、北朝鮮情勢を巡っても一旦峠を越えて地政学リスクに対する意識も若干和らいでいる印象。リスクセンチメントが改善しつつある状況下、ドル円は底堅い展開を予想する。

ドル・ベア (6名、105.00~113.00、中心106.00~113.00)

山下	105.00 ~ 112.00	議会の横槍を受け政策が頓挫する中、トランプ大統領としては財源確保へ向け、速効性があり、且つ、米国内から批判が少ないドル安誘導に動く可能性は高い。米経済指標にも陰りが見られ始めており、ドルの上値は重いと考える。
矢野	105.00 ~ 113.00	米税制改革法案等が公表されるも、トランプ政権の政治運営は懐疑的であることから積極的なドル買いには繋がりにくい。北朝鮮情勢等不透明要因も引き続き意識されることから、上値の重い展開を予想する。
岡本	107.00 ~ 113.00	足許政治リスクや地政学リスクへの警戒感が和らいでいるものの、トランプ政権の運営能力に疑問符がつく中、積極的に上値を追う展開は想像しづらい。引続き欧州の政治イベントも相場の重石となり、上値の重い展開を予想する。
西谷	108.00 ~ 113.00	仏大統領選でのマクロン氏勝利はすでに織り込み済み。米国の経済指標が力強い結果となった場合でも、年3回の利上げペースが加速するまでには至らないだろう。トランプ政権の政策実行能力に懐疑的な見方が広がる中、上値を試す展開は想定しにくく、上値重い推移を基本線に臨みたい。
森谷	106.00 ~ 113.00	政治リスク、地政学リスクに対する警戒感が後退する局面ではリスクオフの巻き戻しによる反発が想定されるものの、トランプ政策の政策実行能力に対する懐疑的な見方が強まっている状況では、積極的なドル買いにはつながりにくいだろう。じりじりと水準を切り下げる展開を予想する。
大熊	106.00 ~ 113.00	北朝鮮の地政学リスクは薄らいだが、米朝両国が強硬な姿勢を取り続けており、市場での警戒感も残存している。足許の米経済指標は消費関連の弱さが目立つなど、米国経済の減速懸念が強まっている。トランプ政権の政策運営も不透明感が漂う状況下では、ドルの上値は限られると考える。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0750 ~ 1.1150
EUR/JPY 119.00 ~ 123.00

国際為替部 為替営業第二チーム 山本 一暁

先月の為替相場

今月のユーロ相場はフランス大統領選第一回投票を経て大幅に上昇した。

月初3日週、ユーロ/ドルは1.06台半ばでオープン。5日、米下院議長が「オバマケア廃案には時間がかかる」とコメントしたことを受けてドル売りの展開になると、ユーロ/ドルは一時、週高値1.0689まで上昇するも一段の買い材料なく1.06台半ばまで戻り売られた。週末の米3月雇用統計発表直後は上下に荒い値動きとなるも方向感はず。その後、ダドリーNY連銀総裁よりFRBのバランスシート縮小に関するタカ派なコメントを背景に米金利上昇、ドル買い優勢になるとユーロ/ドルは週安値1.0581まで下落した。10日週、ユーロ/ドル1.05台後半でオープン。12日、トランプ米大統領による「ドルは強すぎる」、「低金利政策が望ましい」との発言に米金利が大幅低下、ドル売りが強まると一時1.0677まで急騰した。しかしながら、シリアや北朝鮮を巡る地政学リスクを背景としたユーロ/円の軟調推移やフランス大統領選に対する不透明感が意識され、ユーロ/ドルは戻り売り圧力が強く1.06台前半まで反落。週末にかけてはイースター休暇に伴い動意が乏しい展開となった。

17日週、ユーロ/ドルは1.06台前半でオープン。18日、メイ英首相が6月に総選挙を前倒して実施する意向を発表後、英政権基盤強化に対する期待から英ポンドが急騰し、ユーロ/ドルも1.07台前半まで連れ高となった。20日、フランス大統領選を巡る世論調査においてマクロン候補優勢との結果が示されたことを材料に続伸。一時、週高値1.0778をつけるも、週末にフランス大統領選第一回投票を控えてポジション調整が入り、1.07台前半まで値を戻した。24日週、23日に行われたフランス大統領選の投票において順当にマクロン候補とルペン候補が決選投票に進むことがシドニー市場オープン前に判明。決選投票ではマクロン候補がEU懐疑派のルペン候補より優位との見方からユーロ/ドルは前週終値より高い水準となる1.08台半ばでオープン。利食い売りに軟化する場面も見られたが、リスクオフムード後退に欧米株式相場が上昇し、ユーロ/円が上昇する動きにユーロ/ドルは1.0951まで上値を伸ばした。27日のECB理事会では金融政策が現状維持となったものの、ドラギECB総裁の会見が「出口政策、現時点で議論する必要はない」、「フォワードガイダンス変更、議論せず」とハト派色の濃い内容であったことを受けユーロ/ドルは1.08台半ばまで押し戻された。28日、欧州4月消費者物価指数(HICP、速報)が良好な結果になると、一時1.09台半ばまで上昇する展開となった。

今月の見通し

メインシナリオとして、今月のユーロ相場は底堅い展開を予想する。

まず、最重要政治イベントは7日のフランス大統領選決選投票である。決選投票に駒を進めたのはマクロン候補とルペン候補であるが、足許の世論調査ではマクロン候補が大幅リードと報じられている。順当にマクロン新大統領誕生となればフランスのEU離脱懸念が一層後退し、ユーロショートポジションの買戻しの動きが本格化する展開が考えられる。

26、27日にはイタリアシチリア島のタオルミナでG7が予定されているが、現時点ではシリアや北朝鮮情勢等の安全保障についての議題が中心となることが考えられ、為替相場が焦点とはなるまい。仮に米国からドル高けん制や保護主義色鮮明化等があればドル売りユーロ買いとなる。

金融政策については、先月のECB理事会において、出口政策が議論されなかったことがドラギ総裁会見中に明らかとなりユーロが反落する場面が見られたが、一方で経済の下振れリスクが更に後退したことへの言及もあった。今月中、ECB理事会は開催されないが、スタッフ予想が新たに公表される6月会合にてマクロ経済予想とフォワードガイダンスの見直しが諮られる可能性があることから、この点においてもユーロショートポジションを新たに構築する市場参加者は多くはないだろう。

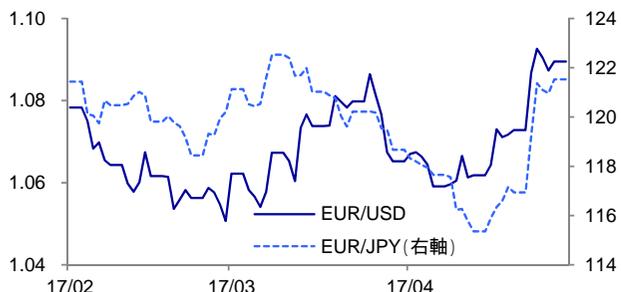
基軸通貨ドルに目を転じて、トランプ大統領がハネムーン期間(就任式から100日)中に目立った政策を打ち出していない点、米税制改革概要が財源を示さず実現性に欠けていた点などを勘案すれば足許、ドル買いが進むとは考えづらい。

テクニカル分析的には、2016/5/3高値1.1616、2017/3/27高値1.0906を結んだレジスタンスラインを抜けかけており上方向へのバイアスがかなりやすいなか、1.08台半ばを走る200日移動平均線がサポートラインとして機能しそうだ。

リスクシナリオとしては、フランス大統領選でのルペン候補当選によるフランスEU離脱懸念の台頭、消費者物価指数など域内経済の弱含みを背景としたECB金融緩和策が長期化するとの思惑の拡がり、米予算教書最終版で財政拡大が明示された場合のドル買い進行などが挙げられる。

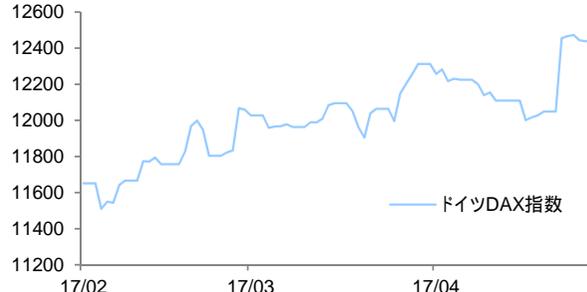
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/11	ZEW景況指数(現状)	4月	77.5	80.1	77.3
4/11	ZEW景況指数(期待)	4月	14.8	19.5	12.8
4/19	ユーロ圏消費者物価指数(前月比)	3月	0.8%	0.8%	0.4%
4/19	ユーロ圏消費者物価指数(前年比)	3月	1.5%	1.5%	2.0%
4/23	フランス大統領選初回投票	-	-	-	-
4/24	IFO企業景況感指数	4月	112.4	112.9	112.4
4/24	IFO期待指数	4月	105.9	105.2	105.7
4/24	IFO現況指数	4月	119.2	121.1	119.5
4/27	ECB主要政策金利	-	0.00%	0.00%	0.00%
4/27	ECB預金ファシリティ・レート	-	-0.40%	-0.40%	-0.40%

カスタマディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

ユーロ・ブル (7名、1.0700~1.1300、中心1.0700~1.1200)

矢野	1.0700 ~ 1.1200	4月ECB理事会後のドラギ総裁の記者会見は総じてハト派色が強かったものの、ユーロ圏の景気回復によりECBによる利上げ開始が早まるとの期待感強い。仏大統領選を消化すれば一定の安心感に繋がること等から、ユーロの堅調推移を予想。
高田	1.0800 ~ 1.1100	仏大統領選挙(第2回)を事前予想通りに通過できれば、ECBの緩和解除観測や回復基調にあるユーロ圏経済を背景にユーロは買い優勢の展開となろう。ただしFRBの利上げ期待に伴うドル買い優勢の場面ではユーロ売りが予想され、上値は限定的であろう。
佐藤	1.0700 ~ 1.1200	仏大統領選を巡る不透明要因の剥落を背景にユーロは買い戻しが入りやすい。また、ユーロ圏経済指標は景気回復基調を維持しており、市場では金融緩和策縮小のタイミングをうかがうステージにあり、底堅い展開を予想したい。
下山	1.0700 ~ 1.1300	仏大統領選挙は無難に通過しそう。ECBからもユーロ圏景気に対してポジティブな指摘があり、緩和を意識したEUR売りが入る局面ではなさそう。世界最大の経常黒字を背景としたユーロ買いもあろうから、ユーロ相場は徐々に上昇すると予想。
森谷	1.0700 ~ 1.1200	仏大統領選挙において波乱なくマクロン氏が勝利すれば安心感からユーロ買いが進行することとなるだろう。4月ECB理事会はハト派と受け止められる結果となったが、近い将来緩和縮小に向かうとの観測は依然として残っており、今月のユーロは上昇する展開を予想。
鶴田	1.0700 ~ 1.1100	4月23日に行われた仏大統領選第1回投票では順当にマクロン氏とルペン氏が通過。5月7日の決選投票ではマクロン氏の勝利が見込まれている状況。仏大統領選を巡る欧州政治不安が後退する展開にユーロ相場は底堅く推移すると考える。
大熊	1.0700 ~ 1.1200	ユーロ圏の景気は底堅さを増しており、景気減速リスクは後退している。ECBによる大規模な資産買い入れは今年12月が期限であり、ドラギ総裁は慎重な姿勢を崩さないものの、今後、緩和縮小が議論になる可能性は高く、ユーロは徐々に上値を切り上げる展開を予想する。

ユーロ・ベア (4名、1.0500~1.1100、中心1.0550~1.1000)

加藤	1.0600 ~ 1.1100	仏大統領選挙を無難にこなしていくことでユーロのポジション調整は入りやすい。ただし、それですべての域内問題が解決したとは言い難く、ユーロの先行きに不安を唱えるものは少なくないであろう。
山下	1.0500 ~ 1.1000	ECBの出口戦略議論が降っては湧いて出てくるものの、ドラギ総裁はあくまで緩和継続を訴えており、待ったなしのドイツがこの議論を扇動しているようにしか思えない。政治イベントに隠れていたギリシャ債務軽減問題も再浮上しており、ユーロ売り方向を推奨。
岡本	1.0500 ~ 1.1000	仏大統領選挙の不透明感が和らいだことからユーロ買いが入っているものの、引続き欧州では政治イベントが続くほか、ECBは出口政策の議論をしない理由として景気下振れリスクを指摘しており、徐々に上値の重い展開を予想する。
西谷	1.0600 ~ 1.1000	仏大統領選でのマクロン氏勝利はすでに織り込み済み。同材料を背景とした上方向の値動きは限定的と思われる。また、ECBが早期に緩和縮小を開始するとの方が見方が一部であるが、4月理事会においてドラギ総裁よりハト派姿勢維持が確認された。1.10を上値目途として、上値の重い展開を基本線に見ていきたい。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2600 ~ 1.3100
 GBP/JPY 145.00 ~ 135.00

欧州資金部 山本 泰平

先月の為替相場

4月のポンドドルは、序盤売られるも、英選挙前倒し等から中盤に堅調に転じ、月末にかけ北朝鮮有事リスクで小緩む展開。1.25前半でオープンし、4カ月ぶりの低水準となった英3月製造業PMI(結果:54.2、予想:55.0)や、英2月鉱工業生産指数の低下(結果:前月比▲0.7%低下、予想:前月比▲0.2%上昇)を嫌気し、1.2365まで下落。シリア空軍基地への米軍ミサイル攻撃(7日未明)で、地政学リスクが高まったことも、有事のドル買いを誘った。しかし、10日週は、市場予想を下回った米3月非製造業ISM指数や、米3月非農業部門雇用者数等を背景に、米経済の加速に一般感が意識される中、FOMC議事録で米株の割高感が指摘されたこと等が意識されてか、反転。さらに、12日にはトランプ米大統領が「ドルは強くなり過ぎている」と発言したことから、ドル全面安となった。17日週は、ポンド側の通貨要因が意識される展開。18日、これまで解散総選挙を否定していたメイ首相が方針を急転換し、6月8日に総選挙を前倒し実施する意向を表明。翌日、最大野党・労働党の支持もあり、522票の圧倒的多数で動議が成立し、5月3日の議会解散が決定。総選挙表明の直前に発表された世論調査(ユーガブ)では、保守党支持44%に対し、最大野党・労働党は23%と、金融危機時のゴードン労働党政権となる20%超の差が開いていることから、総選挙実施が政局安定化に繋がると連想され、為替相場では、遡及可能な1992年10月以降で最大規模にある投機的ショート・ポジション(4月11日時点で66億ポンド)の解消に向かい、ポンドドルが1.2908まで上昇。21日は、3月の英小売売上高が前月比▲1.8%低下と、市場予想(同▲0.5%低下)を大きく下回ると小幅に売られ、1.28近辺で越週。24日週は、ムニューシン米財務長官が、トランプ政権が税制改革案を「間もなく」発表する予定とし、抜本的な税制改革が実現すると声明したことが意識されドル買い優勢地合い。また、25日の北朝鮮人民軍創建85周年記念日を控え、核実験や弾道ミサイルの発射等のリスクが漂う中、米海軍の原子力空母カールビンソンが朝鮮半島近海へ向け航行し、北朝鮮が撃沈すると威嚇したことで、米北衝突の有事リスク(ドル買い)が強まり、ポンドドルは、1.2775まで軟調に推移。斯くして迎えた25日は、砲撃訓練は実施されたが、懸念された核実験やミサイル発射などの挑発行為は無かったため、地政学リスクが後退し、1.28台を回復。

今月の見通し

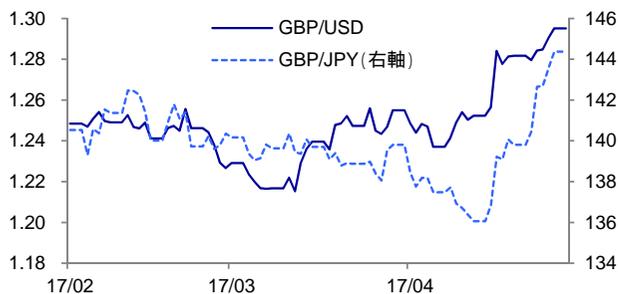
ポンド相場は、しばらく英総選挙が主要材料となろう。ブックメーカーで、保守党の過半数獲得が9割超の確率で取引されるほど与党が圧倒的優位な展開。首相が選挙前の党首討論は実施しないと明言していることから、労働党のどんでん返しは想像しづらい。もともと、労働党は7万ポンド以上の高額所得に対する増税等、左派路線を強調するのみで、ブレグジットに関する主張を避けており、与野党の対立軸も見えづらい。労働党は反主流派との内部対立も強く、一枚板でも無い。労働党の獲得議席予想189議席に対し、保守党は倍近い375議席を獲得することが予想(19日時点、テレグラフ紙)されている。保守党が議席を伸ばせば、国内の政治基盤強化の他にも、次の総選挙(2022年)まで、つなぎの暫定合意等を選択肢に含めた英離脱交渉ができるため、英国の立場を強める可能性もある。独仏の国政選挙が続くため、離脱交渉は早くも両国で新政権が発足した後になる公算で、交渉の工程に空きのある、この時期に政権基盤を固めておくことは、理にもかなっている。英選挙に絡む、ポンドの方向感はいまメイ首相の選挙公約(EU離脱の優先事項等が明確化)を確認するまでは判断できないが、あまりに頑なな交渉方針を示せば親EU派の英自民党に残留派表が流れるリスクがあることから、ソフト・ブレグジット路線に修正される可能性がある。既に保守党は前回の総選挙で移民抑制の掲げた数値目標を撤回している。長期安定政権とソフト・ブレグジット路線が揃えば、英株や消費信頼感が上向き、ポンドも下支えされるだろう。英金融政策を巡っては、議論は二分されている様子。4月は、プリハ委員が、英消費が減速しているため利上げには慎重期すべきと発言する一方、ソーンダース委員は、インフレ率は中銀が2か月前に示した予想を上回るとし、金利をやや引き上げる余地があるとの認識を示した。英3月消費者物価指数と、英12~2月平均賃金が前年比+2.3%で一致したことで、2014年から断続的に続いた実質賃金の上昇サイクルに疑義が生じ、タカ派はインフレの悪影響を主張しやすい状況にある。一方、実質賃金の鈍化は、消費活動を停滞させる要因となり、ハト派の主張も正当化される。四半期インフレ報告が発表される5月11日の英金融政策委員会で政策金利を巡る票数が注目を集め、ポンドも神経質に反応するだろう

今月のつばやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
 くしゃみを噂話と関連付ける迷信が日本にはありますが、英国では、くしゃみをしたら、魂が抜けてしまうという迷信があります。くしゃみをした人は誰かから、Bless you!と叫んでもらうと魂が体に戻ると考えられているようです。Bless youは、God bless you!「神のご加護がありますように!」が省略された言葉です。何故そう言うようになったかは、実際はよく分からないみたいですが、ペストが流行していた時代に始まったとも、紀元後直後のキリスト教にまで遡るとも、言われています。というか、そもそも意味すら考えたこともないほど、ありふれたコミュニケーションなので、起源を説明できる英国人は少ないと思います。ところで、くしゃみといえば、日本では花粉症で大変な時期が続いているのではないのでしょうか。英国でも、スギは少ないですが、草か何かの花粉が多いらしく、花粉症(hay fever)を患っている人が割と多いようです。薬局でも、花粉症の薬が多く販売されています。ところが、マスクは一切、売られていません。風邪や花粉症でマスクをかける習慣が英国にないので、うっかり日本流にマスクを着けて通勤してしまうと、テロリストか何かと間違えられる可能性があります。過激派に神経質な時勢ですので、欧州旅行の際には、お気を付け下さい。

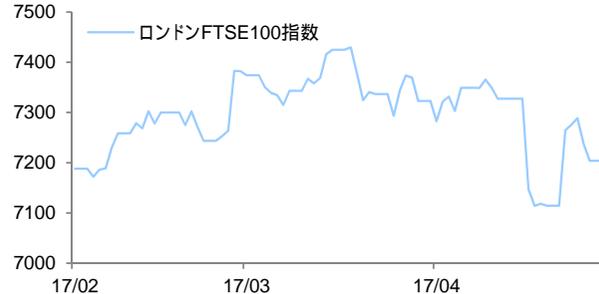
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	製造業PMI	3月	55.0	54.2	54.5
4/4	建設業PMI	3月	52.5	52.2	52.5
4/5	サービス業PMI	3月	53.4	55.0	53.3
4/7	鉱工業生産(前年比)	2月	3.7%	2.8%	3.3%
1/7	製造業生産(前年比)	2月	3.9%	3.3%	2.6%
4/11	消費者物価指数(前年比)	3月	2.3%	2.3%	2.3%
4/12	ILO失業率	12-2月	4.7%	4.7%	4.7%
4/21	小売売上高(含自動車前年比)	3月	3.3%	1.7%	3.7%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7300 ~ 0.7600
AUD/JPY 81.50 ~ 85.00

シドニー支店 山口 美紀

先月の為替相場

4月の豪ドルは0.76前半から0.74半ばに下落。

3日、豪ドルは0.76前半でスタート。翌日、豪準備銀行(RBA)理事会では予想通り、政策金利が据え置かれるも、ハト派(金融引締消極派)なRBA声明文を受けて、豪ドルは0.75半ばに大幅下落した。5日、良好な米3月ADP雇用統計とハト派なFOMC議事要旨と強弱がまちまちの材料より、豪ドルは0.75半ばを中心に揉み合い。翌日、米3月非農業部門雇用者数は予想比弱い結果となるも、失業率が予想比良好な結果となり、為替への影響は限定的。その後、ダドリーNY連銀総裁の「FRBはバランスシートの縮小を2017年後半、または2018年前半に始める可能性がある」と発言したことから米長期債利回りが上昇すると、ドル買いが進行し、豪ドルは0.75割れに下落。翌週、豪ドルは0.75丁度を挟んで揉み合い推移するも、一時3か月ぶり安値0.7473を付けた。

12日海外市場において、トランプ米大統領の「ドルは強すぎる。FRBの低金利政策は望ましい」との発言を受けて、ドルが売られ、豪ドルは0.75前半に急反発。翌日、豪3月雇用統計では、フルタイムの就業者数が増加したこと、全体の就業者数が前月比+6万900人増加(予想:同+2万人増加)と18か月ぶりの大幅増加となり、豪ドルは0.75後半に続伸した。17日、中国1~3月期GDPの上ブレを受けて、豪ドルは0.76台に浮上する場面があるも、すぐに0.75後半に反落。翌日、ややハト派なRBA議事要旨を受けて、豪ドルは0.75半ばに下落。その後(18~25日)、豪ドルは0.75台での上値重い推移が続いた。26日、豪1~3月期消費者物価指数(CPI)は前年比+2.1%上昇と市場予想同+2.2%に届かず、豪ドルは0.75前半に下落。海外市場では、トランプ大統領の史上最大の減税政策を発表を受けて、豪ドルは4か月ぶり安値水準0.74半ばに下落。翌日も豪ドル安の流れが続き、安値0.7440を付けた。結局、豪ドルは0.74後半の安値圏を越月した。

今月の見通し

「5月FOMCにて米利上げに関するヒントの有無に注目(5月2~3日)。」

豪州では、1~3月CPIが先月発表された。CPIは前年比+2.1%上昇、基調インフレは同+1.8%上昇と、2017年2月の豪州準備銀行(RBA)四半期金融政策報告書に記載されたインフレ見通し(CPI:+2%、基調インフレ:+1.75%)に添う結果となっており、RBAは次回CPIが発表される7月末まで政策金利を据え置けよう。したがって、しばらくはRBAの金融政策による豪ドルへの影響は限定的となる。

4月26日に発表されたトランプ政権による税制改革案は、法人税率の大幅減税(35%→15%)を支柱に「過去最大の減税案」が謳われたものの、基本方針に止まり、詳細は6月以降に先送りされた。更に、特に財源は示されなかった。法案の決定権を有する共和党議会が当該案を承認するには相応の財源が必要となるが、財源の一部を補うと見られた国境税は見送られている。一方、FRBメンバーのインフレ見通しのサポートとなっているインフラ投資についてはほとんど何も明らかになっていない。FRBメンバーは引き続き年内追加で2回の利上げを考えており、市場では6月FOMCでの利上げが有力視されている。仮に、6月に利上げを行う場合、5月FOMCにて次回6月FOMCでの利上げに関するヒントが示される可能性がある。FOMC声明文の文言や、FOMCメンバーの発言内容に注目が集まる。

3月以降、地政学リスクが増大している。北朝鮮は、3月の発射事件は在日米軍が標的と表明。4月も発射実験を実施(4月5日)し、米国は空母を派遣(4月8日発表)するなど緊張が高まっている。自制を求める中国との関係も悪化、中国は年末まで石炭輸入を停止。シリアでは、政府軍の化学兵器の使用疑惑浮上(4月4日)。これを受けて、米国は巡航ミサイルでシリアの空軍基地を攻撃(4月7日)。イランは、米国のシリア攻撃を批判(4月7日)。地政学リスクの高まりはリスク通貨豪ドルの下押し圧力となる。

以上のことから、米国の利上げ観測の高まりや地政学リスク増大から、豪ドルは軟調な推移となる。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

早速チームメンバーに聞いてみましたが、ほとんどが当地ではなく英語のことわざ、迷信でした。一部日本でも言われていますね。

<不幸を呼ぶ迷信>

Friday the 13th【13日の金曜日】

Walking Under a Ladder【はしごの下を歩くのは不吉】

Breaking a Mirror【鏡を割ると不吉】

Black Cats【黒猫が前を横切ることも不吉】

Opening an Umbrella Inside【室内で傘を開くことも不吉】

<幸運を呼ぶ迷信>

A Rabbit Foot【ウサギの足は幸運を呼ぶ】

Find Four-Leaf Clover【四つ葉にはWealth(富)、Fame(名声)、Faithful Love(満ちた愛情)、Glorious Health(健康)が込められている】

Throw Salt Over our Shoulder【塩を投げて不幸を回避】

Bird Poops on you【鳥にフンを落とされたらラッキー、特に金運など】

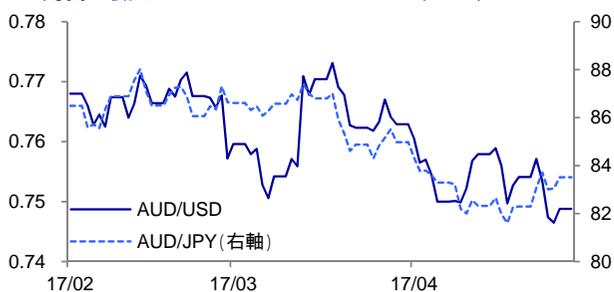
Rain on your Wedding Day【雨は繁栄、浄化を象徴、雨の日の結婚式もアリ】

リアルな四つ葉見つけを諦め、四つ葉のネックレスを買うことにしたカスタマーディーラー。結局幸運はお金で買えず…。ロンドンビジネス出張時、フンを落とされた敏腕トレーダー。すぐに大きくポジションを取っていたら、今頃は大金持ちになっていたかも…。イタリアで雨の中結婚式を行った弊行社員。結局、成田離婚…。やはり全ては迷信のようです。

Knock on Wood!【Good Luck to everyone!】

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	小売売上高(前月比)	2月	0.3%	-0.1%	0.4%
4/4	貿易収支	2月	\$1900M	\$3574M	\$1503M
4/4	RBAキャッシュレート		1.5%	1.5%	1.5%
4/10	住宅ローン申請件数(前月比)	2月	0.0%	-0.5%	0.4%
4/13	就業者数	3月	20.0千人	60.9千人	2.8千人
4/13	失業率	3月	5.9%	5.9%	5.9%
4/18	RBA議事録				
4/26	CPI(前年比/トリム/加重平均)	1-3月	2.2/1.8/1.8%	2.1/1.9/1.7%	1.5/1.6/1.5%
4/28	PPI(前年比)	1-3月	-	1.3%	0.7%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3250 ~ 1.3700
CAD/JPY 80.00 ~ 85.00

GM業務部カナダ室 三木 順一郎
那須 絢子

先月の為替相場

月初1.33台でオープンしたドル/カナダドルは、ロシアでのテロや米国経済指標の悪化を受けたリスクオフ、カナダエネルギー企業のM&A報道による米ドル需要の高まりの思惑から堅調にスタートし、1.34台で推移。4月7日に発表された米3月雇用統計が予想を下回ったこと、カナダ3月雇用統計は堅調な内容となったことからドル/カナダドルには下落圧力が掛かり、米国によるシリア空爆を受けた原油高もカナダドル買いを後押し。シリアに加えて北朝鮮に対する地政学リスクも意識され、米金利低下からの米ドル安も進行。係る環境で迎えた4月12日のカナダ中央銀行(BOC)政策金利決定会合では、景気のアップサイド、ダウンサイド双方が意識される結果となり大きなトレンドは出なかったが、同日、トランプ米大統領がWSJに対するインタビューで、「米ドルは強すぎる」と発言したことから、ドル/カナダドルは一時今年2月末以来の水準で、節目の200日移動平均となる1.32台前半まで下落した。しかし月後半のドル/カナダドルは、月前半の下落トレンドを切り返す格好で堅調に推移。まずは、ムニューチン米財務長官の「トランプ大統領の米ドルに対するコメントはあくまで短期的なもの」、「BAT無しでもUS\$1兆ドルの税収を生み出す策を検討中」といったコメントを受けて米ドルは反転高を窺う値動きとなった。加えてガソリン在庫の増加や、サウジアラビアのエネルギー産業鉱物資源相がOPECの減産延長について、「議論するのは時期尚早である」といったコメントをしたこと等を材料に、原油が1バレル50ドルに向けて下落トレンドが明確となり、カナダドル安が進行。4月21日に発表されたカナダ3月消費者物価指数が予想を下回ったこともカナダドル安材料に。原油が1バレル50ドル、ドル/カナダドルも節目の1.35近辺で揉み合う中、トランプ米大統領が税制改革案におけるコメントの中で、カナダの材木や乳製品に対して課税を示唆する発言を行ったことからカナダドル安が進み、ドル/カナダドルは節目の1.35、昨年12月の高値である1.36も一時上抜ける。さらにトランプ政権がNAFTAからの離脱を検討しているとのヘッドラインを受けて、カナダドル安からドル/カナダドルは高値を更新。後ほどホワイトハウスから即時脱退は否定されたものの、大きなトレンドは変わらず。月末に発表されたカナダ2月GDPも市場予想を下回り、ドル/カナダドルは一時1.37に近接した。

今月の見通し

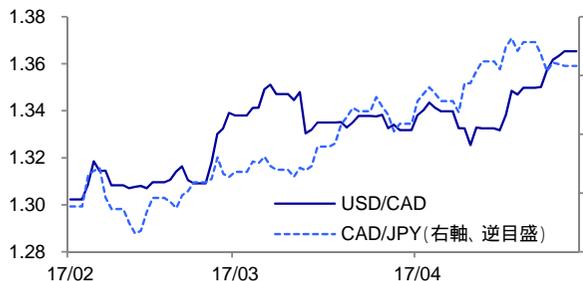
昨年9月中旬以降、ドル/カナダドルは概ね1.30から1.36のレンジ内で推移しているが、足許1バレル50ドル割れとなってきた原油価格、またトランプ大統領のカナダ産製品に対する20%の課税計画の報道がレンジブレイクのリスクを高めている。さらにNAFTA離脱のヘッドラインも議論があるのは事実であり、先行きの不透明感を強めている。オバマケア代替法案の法案化に失敗して以降、トランプ政権に対する信頼性が揺らいできていたが、NAFTAに対する政権の方向性は米国での税制改革案の先行きと合わせて要注視。カナダの金融政策に目を向けると、BOCは政策金利を現行の0.50%で当面据え置く公算が大きい。4月の政策金利決定会合では目先の景気見通しは引き上げ、カナダ経済の需給ギャップ解消見通し時期は2018年前半と従来の2018年半ばからやや前倒したものの、解消自体には依然時間を要し、4月に発表されたカナダ3月消費者物価指数もインフレの低迷が継続するとしているBOCの見通し通りの結果となり、現行の金融政策を変更する必要に迫られてはいない。米国の金融政策についても、足許米国の経済指標に一旦のピークアウト感が見られる中、ブレイクインインフレ率も低下してきており、6月の追加利上げに関しては5月、6月に発表される経済指標を確認する必要があり、即座に議論の遡上に乗せるのは時期尚早。足許下落基調が鮮明な原油に関しても、米国シェールオイルを中心とした原油生産量が増加すること、米リグ稼働数も回復傾向が継続する等需給が緩んできていることが窺われるが、短期的には引き続き5月後半のOPEC減産延長の是非が鍵となる。サウジアラビアを含めて加盟国は原油価格維持の思惑から減産延長方向の意図を持っており、基本は原油価格下支え方向ではあろう。よって、ドル/カナダドルは米トランプ政権の政策リスクからレンジを明確に上抜けるリスクを抱えつつも、引き続き地政学リスクも燻っており、既往レンジ上限であった1.36を大きく上抜けないことをメインシナリオとして捉えたい。

今月のつばやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
カナダの迷信というか小話というか、カナダには有名な1ドル硬貨(ルーニー)のお話があります。カナダの国民的スポーツといえば、アイスホッケー。現地の人は地元のアイスホッケーチームを深く愛し、ホッケーのこととなると普段とても穏やかなカナダ人もイギリスのサッカーフーリガン級の暴動を起こしたりします。2011年、バンクーバーカナックスがスタンレーカップ決勝戦第7試合でポストンブルーインズに負けた時はファンの一部が暴徒化し、100人以上のけが人を出して大きな騒動となりました。そんなホッケーLOVEのカナダですが、オリンピックでは長年ライバルのアメリカに負け続きでした。しかし2002年のソルトレイクシティオリンピックにて、カナダナショナルホッケーチームに転機が訪れます。このオリンピックにおいて、カナダは男女両チーム共にアイスホッケーで金メダルを獲得したのです。この時実は、スケートリンク設置に関わったエドモント出身のカナダ人スタッフが、ホッケーリンクの氷の中に1ドル硬貨(ルーニー)を埋め込み、このことをカナダホッケー代表選手などごく一部に伝えていました。優勝したのち、この秘密が明かされ、取り出されたコインはカナダチームを優勝に導いた“ラッキールーニー”としてその後大切に保管されました。この有名な1ドル硬貨は、現在トロントにあるホッケー殿堂館で見ることができます。ソルトレイクオリンピックの優勝以来、カナダはその後のホッケーの世界大会やオリンピックにおいて優勝をねがいルーニーをリンクに埋めてきました。そのおかげかどうか分かりませんが、2002年以降女子チームは全てのオリンピックにおいて金メダル獲得、男子はトリノを除いたオリンピック全てで金メダル獲得しています。今度ルーニーを手にした時はどうぞゆっくり眺めてみて下さい、ホッケー以外の幸運をもたらしてくれるかもしれません…。

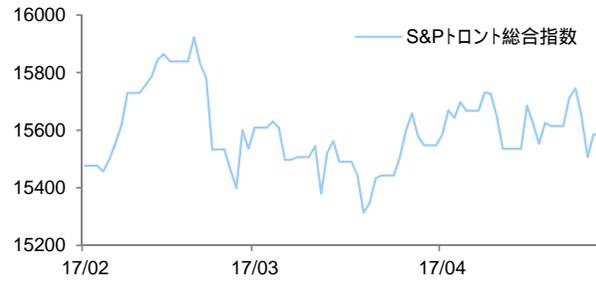
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	BOCシニア・ソフィア・サーベイ	Q1	-	-1.9	-2.6
4/7	失業率	3月	6.7%	6.7%	6.6%
4/7	雇用増減変化率	3月	5.7k	19.4k	15.3k
4/7	IVEY製造業PMI	3月	-	54.7	53.5
4/7	住宅着工件数	3月	214.5k	253.7k	214.3k
4/12	BOC政策金利	-	0.50%	0.50%	0.50%
4/18	中古住宅販売件数(前月比)	3月	--	1.1%	5.2%
4/21	消費者物価指数(前月比)	3月	0.4%	0.2%	0.2%
4/26	小売売上高(前月比)	2月	0.0%	-0.6%	2.3%
4/28	GDP(前月比)	2月	0.1%	0.0%	0.6%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1115	~	1165
KRW/JPY	9.66	~	9.85
JPY/KRW	10.15	~	10.35

(注)100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 山口 智裕

先月の為替相場

4月のドル/ウォンは、4か月ぶりに反発した。北朝鮮関連地政学リスクの高まりを受けて一旦上昇後、イベント通過するにつれ上昇幅を縮小する展開となった。

11日の北朝鮮最高人民会議までのドル/ウォンは上昇。ドル/ウォンは1118.5で取引を開始後、3日には月安値となる前月末比▲5.6ウォン高の1111.6まで下落した。しかし、トランプ米大統領が2日付けのFT紙のインタビューに対し、北朝鮮問題には単独でも対応すると発言して以降、11日の北朝鮮最高人民会議、15日の金日成氏の生誕105周年、25日の北朝鮮人民軍の創建85周年記念日を控えて、地政学リスクが意識される展開となった。3日には一時帰国していた日本の長嶺在韓大使の帰任が決定。5日には北朝鮮が弾道ミサイルを発射、6日には日米電話首脳会談が開催された。また、7日の米中首脳会談では、北朝鮮の核計画が深刻な段階に入ったとの認識が共有されたものの、具体的な項目への合意は見られず。かかる中、最高人民会議を控えて、11日のドル/ウォンは月高値となる前月末比+32.5ウォン安の1149.7まで上昇した。

12日以降のドル/ウォンはイベントを無事通過する中、次第に上げ幅を縮小。韓国時間午後10時半頃、北朝鮮中央テレビは、最高人民会議の内容を報道したものの、核やミサイルについては言及されなかった。また、同日の海外市場で、トランプ大統領がWSJ紙とのインタビューでドル高をけん制。これを受けて13日のドルを一旦1125台まで上げ幅を縮小。その後、北朝鮮が核実験の準備を行っているとの報道がある中、15日や25日の北朝鮮の記念日を控えて、ドル/ウォンが再度底堅く推移する場面も見られたものの、米空母カールビンソンが北朝鮮に急派されていたとの報道や、在韓米国人の定例避難訓練が6月に延期されたとの報道を受けて、地政学リスクが後退。23日のフランス大統領第一回選挙で、市場予想通りマクロン氏とルペン氏が通過したことでリスクセンチメントが改善したことや、25日までの北朝鮮イベントを衝突なく通過したことを受けて、ドル/ウォンは一時1120台まで上げ幅を縮小する展開となった。しかし、連休を控えた月末28日にはトランプ大統領がロイターとのインタビューで米韓FTAを再検討すると発言したことから、前月末比+20.7ウォン安の1137.9ウォンで引けた。

今月の見通し

5月のドル/ウォンは、底堅い展開を予想する。

足許北朝鮮との緊張が意識される展開が続いていたが、25日の人民軍の創建記念日を無事通過し、過度な緊張が和らいできていることから月終盤からは資金流入が活発化している。しかし、トランプ大統領が4月末に米韓自由貿易協定(FTA)の見直し、廃止や地上配備型ミサイル迎撃システム(THAAD)設置費用を韓国に請求すると発言しており、動向が注目される。また、米国の6月の利上げ可能性を占うものとして、月初の米経済指標や3日のFOMCには注目したい。

9日には韓国において大統領選が開催される。国民の党のアンチョルス氏が安保関連をテーマに保守派層を取り込み追い上げる場面もあったものの、幼稚園設置に関わる発言などを背景に支持率の伸びが低迷しており、ともに民主党のムンジェイン氏がリードを拡大している。主な施策は先月記載の通りであるが、経済対策についてはあまり議論されておらず、安保、大企業(財閥)に対するスタンスや雇用の問題などに焦点が当たっている。ムンジェイン氏は、安保に関しては北朝鮮との対話を行うスタンスを繰り返しており、国内では評価は分かれているものの、20~30代を中心に評価する向きが多いように思われる。また、基本的には格差縮小方向の政策を打ち出しており、投票開票後に高所得者に対する増税への懸念などが意識される可能性もある。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
当地における迷信をご紹介します。

・豚の夢を見たら金持ちになれる
豚とお金の発音が似ていることから、できた迷信だそうです。豚の夢を見たら宝くじを買うとか何とか。

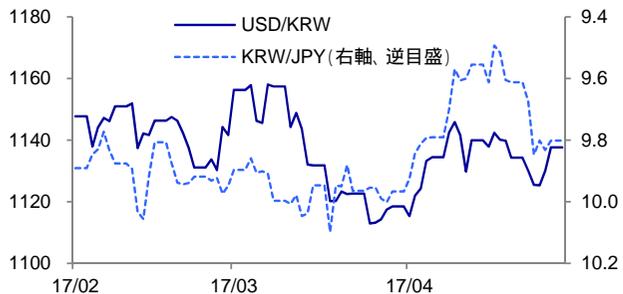
・試験に合格するために餅を食べる
落ちないようにくつつくものをあげるそうです。そのほか、餅は良く贈り物でも使われる縁起がいいものとして扱われています。

・手羽先を食べると浮気をする
恋人に手羽先を食べさせると、肌つやがよくなり、浮気をするという迷信があるようです。こっちは人は男性、女性ともに、やたら肌の綺麗さを求められているようです。

・夜爪を切ると死ぬ
爪をねずみが飲み込み、自分と同じ顔をした化け物に変身し、殺しに来るそうです。夜の爪きり系はたまに聞きますが、ダイレクトすぎます。

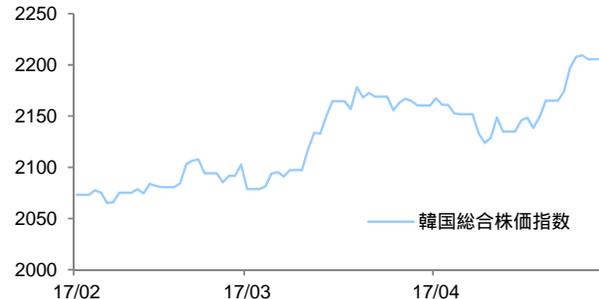
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	日経韓国製造業PMI	3月	--	48.4	49.2
4/4	消費者物価指数(前年比)	3月	2.10%	2.20%	1.90%
4/12	失業率(季調済)	3月	3.80%	3.70%	4.00%
4/13	韓国銀行7日間ポレート		1.25%	1.25%	1.25%
4/21	輸出20日間(前年比)	4月	--	28.40%	14.80%
4/21	輸入20日間(前年比)	4月	--	16.40%	29.40%
4/25	消費者信頼感	4月	--	101.2	96.7
4/27	GDP(季調済/前期比)	1Q P	0.80%	0.90%	0.50%
4/27	GDP(前年比)	1Q P	2.60%	2.70%	2.40%
4/28	鉱工業生産(前年比)	3月	4.00%	3.00%	6.60%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 29.80 ~ 30.70
TWD/JPY 3.52 ~ 3.75

台北資金室 三浦 勇二

先月の為替相場

4月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高となった。

月初30.370でオープンしたドル台湾ドルは、台湾の連休中にドルインデックスが上昇したことを受けて、ドル買いが先行するも、株式市場での外国人投資家の買い越しを受けた台湾ドル買いフローの増加に上値を押さえられる展開。しかしながら、その後は株が軟化したことや、米3月ADP雇用統計が市場予想を上回る結果となったこと、FOMC議事録でのバランスシート縮小に関する議論に加え、米軍のシリア攻撃に関する報道を受けて再びドル高基調となると、4/7には4月の高値となる30.700まで上昇。

4/7に発表された米3月雇用統計は、非農業部門雇用者変化数が9.8万人増と市場予想を大幅に下回るも、失業率が4.5%と2007年5月以来の水準まで低下。ドルインデックスは発表直後こそ大きく下落したものの、その後は米金利上昇とともに発表前の水準へ反発。翌4/10の台湾市場への影響は限定的となった。

月半ばに入り、北朝鮮情勢をめぐり地政学リスクへの警戒感が高まる中、ドル買い地合いが継続するも、トランプ大統領のドル高けん制や低金利政策志向に関する発言を受けて軟化に転じ、4/13には30.231まで下落する展開。しかしながら、その後はムニューシン米財務長官の「長期的に強いドルはよいこと」との発言を受けたドル高を背景に反発。台湾の株式市場での外国人投資家の売り越し増加も相まって、4/20には30.470をつける場面もみられた。

4/23の仏大統領選初回投票は、独立系のマクロン候補と国民戦線のルペン候補が決選投票へ進む結果。概ね事前の世論調査通りの内容となったことから、フランスのEU離脱(Frexit)への警戒感は後退し、翌4/24はドルインデックスの下落を受けて台湾ドル買い優勢となると、月末にかけても、株式市場への外国人投資家の資金流入、輸出企業のドル売りを背景にドル安台湾ドル高が進む展開となった。

今月の見通し

5月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高を見込む。

4月に発表された台湾の経済指標をみると、3月の輸出額が前年同月比13.2%増と6か月連続の増加。主要輸出品である電子部品やIT・通信製品を中心に好調さを維持。台湾財政部は世界的な景気の回復に加え、IoTなど、新たなビジネスチャンスが広がっており、今後も台湾の輸出拡大に有利に働くとの見方を示している。輸出受注額についても、同12.3%増と8か月連続の増加。米国、中国からの受注増加が大きく寄与。上半期は一部のスマートフォンモデルチェンジ時期に当たることもあり、今後も好調な輸出が継続すると見込まれる。

5月は引き続き、トランプ政権の経済・通貨政策の動向が注目されるほか、利上げに関するFRB高官の発言にも注目が集まる。4月に発表された米経済指標は3月雇用統計や、3月ISM製造業景況指数、ニューヨーク連銀製造業景況指数をはじめ、市場予想対比弱い結果や、企業マインド改善にピークアウト感があることを示す結果が続いている。今後発表される経済指標も弱い内容が続けば、FRBの利上げペース鈍化への懸念も広がり、ドル台湾ドルの上値は重くなる展開となるか。

台湾側の材料としては、為替相場への影響が大きい株式市場での外国人投資家の動向が注目される。2017年に入り、1-3月にかけでは、1,657億台湾ドルの買い越しとなり、2016年の年間の買い越し額3,102億台湾ドルの53%に上った一方、4月は株価の上値が重くなる中、買い越し額も140億台湾ドル(4/25時点)に留まり、資金流入のペースは大きく鈍化。年初より急速に進んできた台湾ドル高の輸出企業への悪影響も懸念される中、今後も外国人投資家の資金流入が継続し、台湾ドル買い需要の増加につながるかが注目される

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

日本同様、台湾にもたくさんのことわざがあります。日常の会話で使われるということは多くないようですが、以下、いくつかよく知られているものをご紹介します。

①公道自在人心
人は皆、心の中に正義感を持っているという意味です。「公道」は中国語では正義、公正であるといった意味になります。

②刀子嘴、豆腐心
口は悪いものの、心は優しい人を表す言い回しになります。刀子嘴は刃物のように鋭い言葉を使うことを表し、豆腐心は豆腐のように柔らかく優しい心を持っているということを示します。

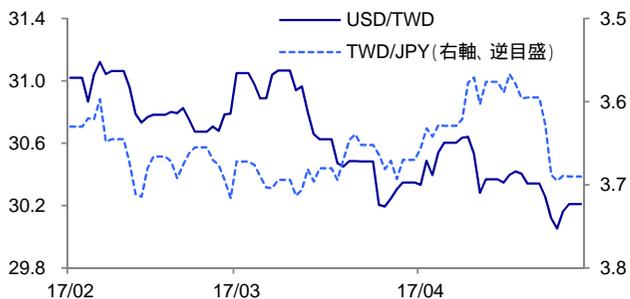
③有銭能使鬼推磨
直訳すると、「お金があれば鬼に臼をひかせることもできる」という意味になります。日本語の「地獄の沙汰も金次第」と同じように、お金さえあれば何でもできるという意味で使われ、いい事を表すものとしては使われません。

④心急吃不得熱粥
気が焦ると熱い粥は食べられないという意味で、慌ててしまうと何事もうまく処理できないことを表します。

⑤家家有本難念経
直訳は、「それぞれの家には読むのが難しいお経がある」ですが、どんな家庭や人にも問題や悩みがあるということを示します。

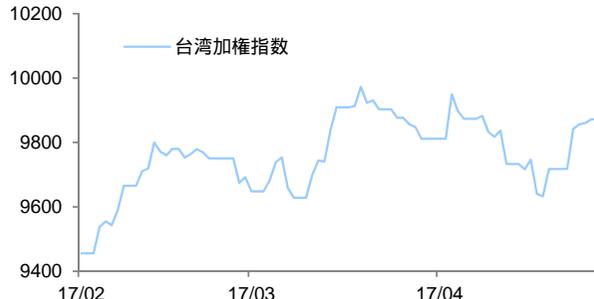
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/6	消費者物価指数(前年比)	3月	0.75%	0.18%	-0.07%
4/6	卸売物価指数(前年比)	3月	2.30%	1.84%	2.39%
4/6	外貨準備高	3月	-	437.53B	437.66B
4/10	貿易収支	3月	3.70B	3.93B	3.36B
4/10	輸出(前年比)	3月	15.50%	13.20%	27.70%
4/10	輸入(前年比)	3月	25.00%	19.80%	42.10%
4/20	輸出受注(前年比)	3月	8.80%	12.30%	22.00%
4/24	失業率	3月	3.80%	3.84%	3.83%
4/24	鉱工業生産(前年比)	3月	6.20%	3.22%	10.64%
4/28	GDP(前年比)速報値	Q1	2.44%	2.56%	2.88%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7000 ~ 7.7900
HKD/JPY 13.90 ~ 14.50

香港資金部 Ken Cheung

先月の為替相場

【4月の香港ドル直物相場】

ドル／香港ドルは香港ドル安の流れが継続。仏大統領選の第1回投票の結果を経てリスクオフムードが後退し、約13か月ぶりの7.78を超える水準まで香港ドル安が進行した。3月のFRBによる利上げ以降、香港ドル金利とドル金利の金利差は拡大していることが主因と想定される。香港ドル金利が低位で推移している中で、市場参加者のドル調達ニーズから香港ドル売りドル買いのフローも散見され、ドル／香港ドルフォワード1か月物は▲60ポイントと約9年ぶりの低水準で推移した。

【4月の香港ドル金利市場】

香港ドル金利は流動性が相対的に潤沢であることから低下した。インターバンク市場の流動性を図る指標である香港通貨管理局(HKMA)の当座預金残高は、7か月連続で2,600億香港ドル程度と高水準になった。HIBOR3か月物は0.88%付近と前月末から0.06%程度低下した一方で、LIBOR3か月物は1.15%付近と前月同水準での推移となり、香港ドル金利とドル金利の金利差は約0.27%程度まで拡大した。斯かる中、香港ドルスワップ金利とドルスワップ金利の3年物及び5年物の金利差についても、前月末から拡大した。ドル／香港ドルの通貨ベースは、海外勢による債券発行に係るヘッジフローから一時的にマイナス幅を拡大したものの、その後は前月と同水準程度での推移となった。

【4月の香港株式市場】

ハンセン指数は、前月に19か月ぶりの高値を更新した後、24,000水準まで下落した。グローバルに株式市場が安定している中で、中国ではシャドーバンキング(影の銀行)や投機的取引に対する規制強化の懸念が高まったことで、中国市場からの資金流入が減少した格好だ。中国政府が発表した「雄安新区」の設立は、周辺地域の建設や経済発展を促進されるという見方から、香港及び中国株式市場双方に刺激材料となろう。

今月の見通し

【5月の香港ドル直物相場】

香港ドル金利とドル金利の金利差が拡大しており、香港市場からの資金流出圧力の懸念は残存し、ドル／香港ドルの取引レンジは7.77から7.79を想定する。足許拡大した金利差が今後も継続する場合は、7.76水準までの香港ドル高は想定し難い。また、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりは、アジア市場からの資金流出を加速させるだろう。一方で、FRBは6月の利上げについて切迫感を示しておらず、今後も緩やかな香港ドル安は継続となろう。足許の香港ドル金利及びドル金利の金利差拡大により、ドル／香港ドルフォワードは目先低水準での推移を見込む。

【5月の香港ドル金利市場】

足許香港ドル市場の流動性は潤沢な状況が継続しており、香港ドル短期金利は低位安定を見込む。一方で長期的な目線で見れば、香港ドルとドル金利の金利差拡大が継続し、ドル／香港ドルが7.80水準まで香港ドル安が進行する場合、香港の各金融機関が香港ドル金利の引き上げを検討する可能性も想定される。長期ゾーンについては、香港ドルスワップ金利とドルスワップ金利の金利差は拡大した状況が継続するだろう。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

香港市場において迷信とされているものに、「ティンハイ効果(アダム・チェン効果)」と呼ばれるものがある。

香港の俳優であるアダム・チェンが出演しているテレビや映画が放映されると、香港株式市場が不思議と低迷するとされている現象である。

1992年のテレビドラマ「大時代」にティンハイという役名で主演として登場した際に、香港ハンセン株価指数は大幅に下落したことがきっかけとなっている。

その後も、アダム・チェンがドラマに出演する度に株式市場が下落する局面が散見されたため、このような現象が「ティンハイ効果(アダム・チェン効果)」と呼ばれるようになり、香港市場の迷信として語り継がれている。

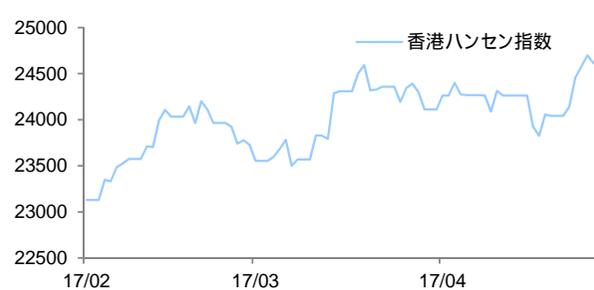
為替の動き

(資料)ブルームバーク



株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/6	日経香港PMI	3月	-	49.9	49.6
4/7	外貨準備高	3月	-	\$395.6b	\$390.5b
4/21	総合利率	3月	-	0.32%	0.32%
4/21	CPIコンボジット(前年比)	3月	0.50%	0.50%	-0.10%
4/21	失業率(季調済)	3月	3.30%	3.20%	3.30%
4/25	輸出(前年比)	3月	10.40%	16.90%	18.20%
4/25	輸入(前年比)	3月	12.50%	13.00%	25.40%
4/25	貿易収支(HKD)	3月	-55.5b	-42.3b	-56.3b

(資料)ブルームバーク

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 6.7500 ~ 7.0500
 CNY/JPY 15.18 ~ 16.89
 100JPY/CNY 5.9207 ~ 6.5250

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 馬場 一樹

先月の為替相場

【為替相場】

4月のドル/人民元相場は動意に乏しく、総じて6.89を挟んだレンジ相場を形成。清明節明けとなる月初のドル/人民元実勢相場は6.89近辺でオープン。7日に発表された米3月雇用統計が軟調な結果となるも、失業率が低下したことや一時的な天候要因との見方から米金利の反応は小幅低下に留まり、その後反転上昇し始めると為替もドル高に推移。週明けにドル/人民元も一時6.91近辺まで上昇したが、その後米国によるシリア空爆や北朝鮮等の地政学リスクの高まりによる米株急落及び米金利低下を背景にドル安が進行すると、ドル/人民元も6.88割れまで下落となった。14日の海外時間に発表された米3月CPIが予想を下回ったことで全般的にドル売りが先行するも、元安方向へのフローも相応に見られたため、その後は6.88~6.89と狭いレンジでの動きが継続。同日発表された米財務省による為替操作報告書では中国を為替操作国として認定せず、引き続き監視対象とした。17日に中国1~3月期GDPが発表され、市場予想を上回る前年比+6.9%増と2015年7~9月期以来の伸びとなったが、為替はほとんど動意無く推移。24日には仏大統領選挙第一回投票で事前の予想通りマクロン氏とルペン氏が決選投票に進むことが決定したことを受けてユーロ買いドル売りの動きが出たものの、ドル/人民元への影響は限定的だった。その後当局によるレバレッジ規制強化の噂から上海株が下落したことに伴い6.90手前まで上昇したものの、上値も押さえられ6.89台で推移。

【金利相場】

年度末及び連休を越え一旦は資金調達ニーズが落ち着きカーブ全般に金利低下となるも、月後半にかけては税金の支払いに伴う資金需要や月末越えの資金調達ニーズを背景に手前中心に金利上昇。月前半は、中国人民銀行(PBOC)が13営業日連続で公開市場操作を見送る等ネットで資金吸収となるも、一部の中資系大手行からの資金放出ニーズが優勢となり、金利はカーブ全般に低下。13日にPBOCは14営業日ぶりにリバースレポを実施。以降も継続的に実施し、結局月内は700億元の資金供給となった。17日に中期貸出ファンリティ(MLF)による資金供給も実施されたが、一部の中資系大手行や株式制商業銀行等からの資金調達ニーズは強く、月後半は短期ゾーン中心に金利上昇となった。

今月の見通し

【為替相場】

5月のドル/人民元相場は、引き続き落ち着いた値動きを想定。月初は米国で重要な経済指標の発表や、FOMC等イベントを控えるも、現状金融政策の変更等は見込まれないことからファンダメンタルズが現状のまま維持されている限りは特段大きなドルの動きは想定せず。地政学リスクが高まり始めれば米金利低下及びドル安方向への懸念はあるも、足元では一旦ピークをつけたような動きも見え、一方的にドル安方向に動くことも想定しがたい。7日に仏大統領選決選投票が行われるが、事前の予想通りマクロン氏が勝利となればインパクトは限定的か。逆にルペン氏勝利となれば、ユーロ売りからのドル高となる可能性には注意。

【金利市場】

月初は月末を越えたことから資金需要がいったん落ち着き、金利は若干低下する可能性がある。しかし、当局が金融引き締めスタンスを維持する中、流動性がタイトな状況から金利上昇圧力がかなりやすい状況が継続か。前月前半に見られたように、PBOCが資金の流動性は適切だとしてオペ実施を見送ることも多くなっているため、引き続き当月の動きも注視。一方で、状況に応じてリバースレポの金額を増減させるなどして、PBOCはオペレーションを適宜調整している。そのため流動性はタイトな状況が続くと見られるが、大幅な金利上昇には繋がらないだろう。

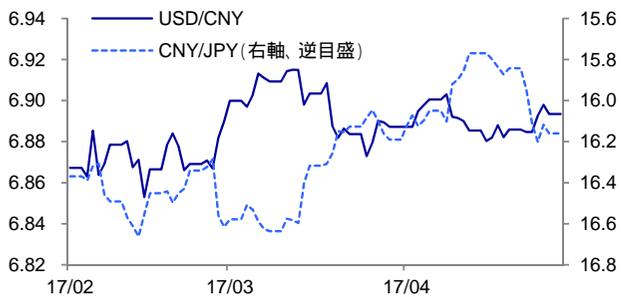
今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

中国では、出産が干支から影響を受けるという考え方があります。猴(猿)年、龍年、馬年に生まれた子どもは縁起が良く、運勢も強いということです。これらは当然迷信ではありませんが、その影響を受ける人が今も多いようです。実際、中国の出生率は龍年、馬年、鶏年は高く、羊年、虎年は低くなっており、干支と大きく関係しているのが現状です。したがって、龍年ベビーブームのときには病院に制限がかかるケースもあるとか。そもそも干支(十二支)は中国の発明品とされています。古くから日本に伝わり、今は日本でもよく使われています。また、中国では干支は西暦ではなくて旧暦に従うので、春節までは前年の干支ということになっています。ちなみに、2012年の中国富豪ランキングによると、富豪のうち最も多かった干支は縁起のよい龍ではなく「兔」だったようです。また、中国皇帝のシンボルといえば龍ですが、生年月日が記録されている中国皇帝291人のうち、一番多い干支も「兔」なのだそう。かくいう私も、「兔」年です。よろしくお祈りします。

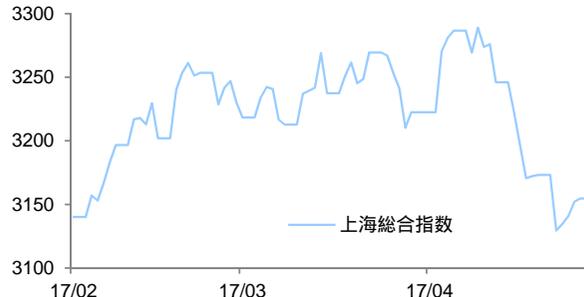
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/13	貿易収支(RMB建)	3月	75.80B	164.34B	-60.36B
4/13	輸出(RMB建)(前年比)	3月	8.0%	22.3%	4.2%
4/13	輸入(RMB建)(前年比)	3月	15.0%	26.3%	44.7%
4/12	CPI(前年比)	3月	1.0%	0.9%	0.8%
4/17	GDP(前年比)	1Q	6.8%	6.9%	6.8%

(資料)ブルームバーグ

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3850 ~ 1.4050
 SGD/JPY 79.00 ~ 80.50

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

先月の為替相場

4月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGD高値圏でレンジ取引。SGDは1.40近辺でオープンした後、米中首脳会談を5~7日に控えて米国の保護主義的な動きへの警戒感が高まったことや、米ドル金利の上昇を背景に、弱含み推移。7日には、予想より弱かった米3月雇用統計や、米軍によるシリア攻撃を受けて乱高下する局面もあったが、概ね緩やかなSGD安の流れが続き、10日は月中の安値となる1.40台後半をつけた。しかし、11日の海外時間にトランプ米大統領が、「中国の協力を得られなくても、単独で北朝鮮問題を解決する」と述べたことがきっかけで、ドル/円は110円の節目を抜けて円高が進んだ。また12日には、トランプ大統領による「ドルは強すぎる」との発言を材料に5か月ぶりの水準まで円高となった。SGDもこの動きに連動れて、12日に一気に1.39台半ばまでSGD高となった。翌13日は、シンガポール金融管理局(MAS)が定例の通貨政策見直しを行い、事前予想通り、SGD実効レートをいずれの方向にも誘導しない「中立スタンス」を継続すると発表した。また一部で予想されていた、将来のSGD高誘導再開についてのフォワードガイダンスについては、今回の声明文に盛り込まれることはなく、中立スタンスを「長期間に亘って(extended period)継続する」との文言が維持された。これを受けて発表直後はSGD売りとなったが、イスター休暇を翌日に控えていたこともあり、1.39台後半へ小幅下落に留まった。17日の週は、仏大統領選第1回投票を週末に控えて様子見気分が広がったことに加え、主要通貨はユーロ高、円安となり、SGDへの影響が相殺されたため、SGDは1.39台後半で方向感なくレンジ取引となった。24日は、仏大統領選第1回投票結果、中道系のマクロン候補が大統領に選出される可能性が高まり、リスク回避巻き戻しの流れとなったことで、SGDも1.39台前半へ続伸し、約5か月半ぶりの高値を更新した。その後は1.39台のSGD高値圏で小動きが続いた。

今月の見通し

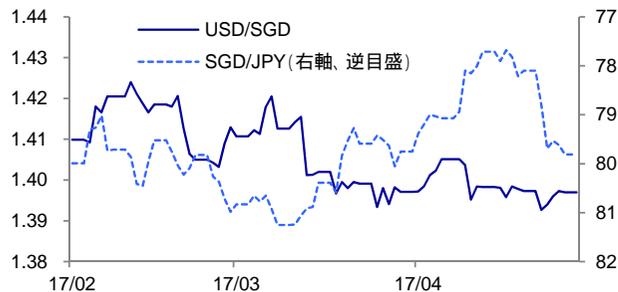
5月のSGD相場は、引き続きSGD堅調推移を予想。4月に発表された1~3月期GDP速報値は、事前予想を僅かながら上回った。しかしセクターによってばらつきがあり、景気回復の足取りは緩やかなものとなりそう。これらの状況に鑑みて、MASは、中立的な通貨スタンスを長期間に亘って継続すると発表した。市場参加者の間では、景気下振れリスクの後退と緩やかな回復基調を理由に、次回の見直し時にMASが緩やかなSGD高誘導を再開するとの期待が強い。よってSGD堅調基調が継続すると予想する。国外要因を見ると、トランプ大統領による大型減税、大型インフラ投資の実現性について懸念が広がりつつあること、足許、弱めの米経済指標が続いていることなどから、ドルがもう一段下押しされる可能性がある。ただ、ドル以外の主要SGDバスケット構成通貨については、人民元は資金流出が収まり人民高トレンドに回帰し、ユーロも仏大統領選の不透明感が払拭されユーロ買戻しの流れとなっている一方で、円は一連のリスク回避の後退で足許軟調推移しており、総合すると目先のSGDへの影響は円によってトーンダウンしたSGD高基調になりそう。これらのことから、一方的なSGD高となるよりは、基調はSGD高を維持しつつ一進一退を繰り返すのではないかと予想する。注目イベントは3日の米FOMC、下旬に発表予定の1~3月GDP確報値。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
 シンガポールの事情を揶揄した、ことわざシンガポールバージョンを2つご紹介いたします。
 You can lead a citizen to newwater and you can force him drink. (オリジナルはYou can lead a horse to water but you can't make him drink: 馬を水飲み場に連れて行くことはできても、水を飲ませることまではできない)
 シンガポールは資源に乏しく、飲料水さえマレーシアから買っています。2011年には、浄化施設などのコストを負担するという条件で、契約を50年間更新することが出来ましたが、水問題は安全保障上の懸念であり、政府は自給の手段を模索しています。その一つが、汚水から製造された飲料水「NEWater」です。NEWaterは政府のイベントなどで参加者に提供されます。また、シンガポールの小学生は授業でNEWater工場見学に行き、ろ過膜を通して蒸留する仕組みについて学ぶと同時に、この水を試飲します。
 The early bird catches the Hello Kitty. (オリジナルはThe early bird catches the worm: 早起きは三文の徳)シンガポール人は、流行り物に行列するのが大好き。周りの人が持っているものを自分が持っていないと不安に感じるところがあるようです。以前、ファーストフード店でハンバーガーセットを買くと、毎週違うコスチュームを来たハローキティのぬいぐるみか買えるというキャンペーンを行ったところ大当たりで、早朝から行列が出来ました。(鈴木教子)

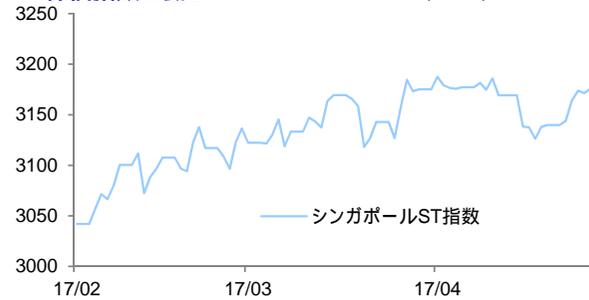
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	購買部景気指数	3月	50.8	51.2	50.9
4/3	電子産業指数	3月	-	51.8	51.4
4/12	小売売上高(前年比)	2月	1.9%	-2.5%	2.3%
4/13	GDP(前年比)	1Q	2.6%	2.5%	2.9%
4/17	非石油輸出(前年比)	3月	-6.4%	-1.1%	1.1%
4/24	CPI(前年比)	3月	0.7%	0.7%	0.7%
4/26	鉱工業生産(前年比)	3月	5.8%	10.2%	10.2%

タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 34.00 ~ 34.70
THB/JPY 3.15 ~ 3.25

バンコック資金室 井上 由貴

先月の為替相場

○ドル/パーツは往って来い。

上旬、ドル/パーツは上昇。月初3日は前月末からの下落基調が継続し、34.20台後半で取引を開始。3月消費者物価指数(CPI)は前年比+0.8%にとどまり、伸び幅は前月に続き縮小した。ドル/パーツは米金利の低下を背景に34.30パーツを挟んで上値重い推移となった。その後は調整も入り反発。7日はアジア時間に米軍がシリアに向けてミサイルを発射したとの報道を背景にリスクオフムードから対アジア通貨でドル買いが優勢となるとドルパーツは月高値となる34.60台後半まで上昇した。

中旬、ドル/パーツは反落。週明け10日以降は、北朝鮮情勢の緊迫やシリア問題等の地政学リスクが意識されたことや、トランプ米大統領によるドル高けん制発言が報じられ、マーケット全体でドルは上値重く推移。ソングラン休暇で流動性の薄い中、ドル/パーツは34.30台まで下落。その後、15日に発表された米為替政策報告書では、タイは監視リストには入らなかったものの、対米貿易黒字が大きいことから、今後為替介入が困難になるとの見方もあり、ドルパーツは週明けの17日にかけて月間の安値圏である34.20台半ばまで下値を試す展開。ムニューシン米財務長官の「長期的には強いドルが好ましい」との発言が伝わったことで、ドルに買戻しが入るとドル/パーツは反発。19日には、ウィラタイ・タイ中銀総裁が「タイパーツは他のアジア通貨と比べて安定している」「資金流入をモニターしており、パーツの過剰なボラティリティには対処する準備がある」と発言した。その後、海外時間にはムニューシン財務長官が「トランプ大統領がドル押し下げを狙うことは絶対ない」と発言し、34.40近辺まで戻すも、地政学リスクの高まりや週末に仏大統領選挙を控えて様子見ムードも強く、上値重く推移した。

下旬、ドル/パーツはレンジ推移。23日の仏大統領選挙を無難にこなし、ユーロやドル/円が急騰する展開にもドル/パーツの反応は限定的で、月末を控えた輸出企業のパーツ買い需要も重石となりドル/パーツは34.30台で上値重く推移した。24日、商務省は3月貿易統計を発表。輸出、輸入とも市場予想を大きく上回る結果となるもドル/パーツの反応は限定的だった。25日には北朝鮮が朝鮮人民軍創設85周年を迎えるも、警戒されていた核実験や大陸間弾道ミサイル発射実験が行われなかったことでリスクオフムードは後退、ドル円が上昇する展開にドル/パーツも34.40台まで上昇した。月末にかけては輸出企業のパーツ買い需要をこなしながら34.60台まで上昇している。

今月の見通し

○ドル/パーツは上値の重い展開を予想する。

4月のドル/パーツは引き続きドルの動きに振らされる展開となった。マーケット全体的に、シリアや朝鮮半島を中心とする地政学リスクの高まりや、欧州の政治リスクに反応しやすい状況が続いている。トランプ政権は税制改革の骨子を発表したものの政策実行力に疑問符がつく中でマーケットの反応は限定的で、今年残り8か月間で2回と予想される米利上げの動向に関しても米債売り、ドル買いに拍車をかけることはないだろう。

タイ国内目を向けると、タイ中央銀行(BOT)が発表した3月の貿易統計では、輸出が前年比+10.8%増加(金を除くと同+12.1%増加)であった。電子部品をはじめとして石油関連製品や天然ゴムが引き続き好調であり、輸出の拡大がタイ経済のドライバーと表現するなど強気の見方を示している。財務省も今年の輸出見通しを従来の同+2.5%から同+3.3%に上方修正している。ただ、輸出の拡大はトランプ政権からの監視と表裏一体である。米財務省が4月に公表した為替政策報告書において、タイは監視リスト入りを免れた。一方で、トランプ大統領が主要な貿易相手国との貿易赤字の要因に関して調査を命じたが、2016年の対米貿易黒字189億ドルを誇るタイもその16か国のうちのひとつに名を連ねている。このような状況下では従来のように為替介入等によるパーツ安誘導が困難になるとの見方を地元有力紙が報じ、話題になっている。また、BOTは最近3か月物と6か月物の中銀債の発行を月間800億パーツ減額することを発表している。パーツ高のひとつの要因と考えられている、海外投資家からの資金流入を抑制することでパーツ高の進行を食い止める意図があるが、4月にドル/パーツは34.20台までパーツ高が進行するなど、現状目に見えた効果は得られていない。ウィラタイBOT総裁は、「短期債の発行減額により、大量かつ短期的な資金の国内流入をBOTが好ましく思っていない」との意図を内外投資家に向けて発信した」と語る一方で「この種の政策の効果の評価するには一定の時間が必要。」とし、劇的な効果が見られないことを明かしている。タイ債券市場協会(TBMA)によれば、海外投資家からの資金流入は長期債が中心となっており中銀債発行の減額はアナウンスメント効果以上の意味は期待できないかもしれない。

マーケット全体的にドル買いが盛り上がりながら、ドル/パーツは再び34.00の節目に向けて上値の重い展開を予想する。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

タイのことわざ。調べてみたところ、日本と同様に動物が登場するものが多いようです。タイ人の同僚たちに、「何かことわざ教えて、面白いやつか、頻繁につかうやつ」とリクエストしたところ、「絞れない」「状況による」など、大激論(大混乱?)を引き起こしてしまつたのでこっそり退散。

面白ことわざの紹介は他拠点のみなさまにお譲りするとして、バンコックからは心温まることわざをご紹介します。

プミポン前国王が過去に引用したことがあり、最近になって再び注目が集まっているようです。

<タイ語> ปัดทองหลังพระ

<読み方> ビット) トーン ラン プラ

<直訳> 仏像の背中に金箔を貼る

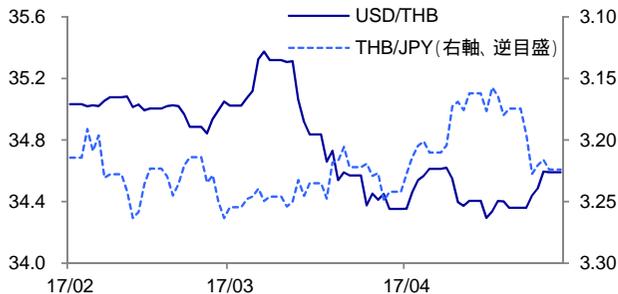
<意味>

誰かに知られなくても、善い事をし、互いに助け合う。誰もあなたの行動を知らない。でも、あなたがいなければ何事も成し得ない。

日本語では、「縁の下の力持ち」といったところでしょうか。覚えておきたい言葉が増えました。

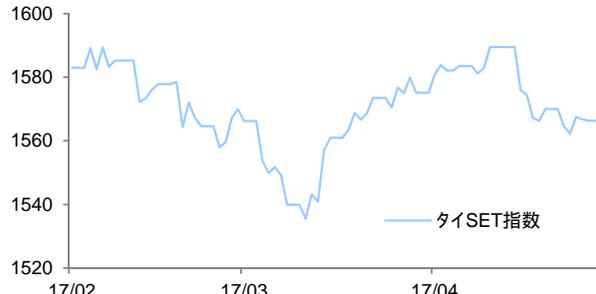
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	消費者物価指数(前年比)	3月	1.30%	0.76%	1.44%
4/3	CPIコア(前年比)	3月	0.62%	0.62%	0.59%
4/7	消費者信頼感	3月	-	76.8	75.8
4/24	輸出(通関ベース/前年比)	3月	1.70%	9.22%	-2.76%
4/24	輸入(通関ベース/前年比)	3月	9.55%	19.26%	20.36%
4/28	経常収支	3月	\$4,138M	\$2,576M	\$5,735M

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.28 ~ 4.38
MYR/JPY 25.00 ~ 26.00

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

先月の為替相場

先月のリング相場は4.42台前半でオープン。オープン後、リビアのシャララ油田の操業開始を受けた供給過剰懸念から原油価格が下落すると4日にはリングは4.42台後半まで軟化。その後、一旦米中首脳会談を前に様子見となり4.43台近辺で方向感なく推移。しかし、5日に発表されたFOMC議事要旨にて米株市場への警戒感が示されたことや、7日の米軍によるシリアに向けてミサイルを発射したとの報道にリスク回避モードからリングは4.43台後半まで下落した。

10日には前週末のドル買いの流れを受けリングは一時4.44台まで下落するも、イエレンFRB議長の講演を前に小反発。11日には米金利低下を受けたドル売りやシリアの地政学リスクの高まりを背景とした原油相場の上昇にサポートされリングは4.43台前半まで上昇した。13日にはトランプ米大統領の「ドルは強くなりすぎている」とのドル高牽制発言からドル全面安となり、リングも4.39台後半まで値を上げた。

月半ばに入ると、軟調な米国金利動向を受けてリングは底堅く推移。翌18日には、ムニューシン米財務長官の「長期的には強いドルが望ましい」との発言から、4.41台まで下落。しかし、19日に発表されたマレーシア3月消費者物価指数(CPI)が約8年ぶりの高水準となる前年比+5.1%となったことも手伝い4.39台半ばまで反転。その後は、仏大統領選挙を控え様子見気分が高まるなか、実需のドル売りに4.39台前半まで値を上げた。

月末週24日は、マレーシア市場は休場であったが、同日にマレーシア政府系投資会社IMDBとアラブ首長国連邦の政府系投資会社IPICが和解との報道が伝わると、休日明けの25日にはリングは急上昇。また、一部米格付会社がマレーシア中央銀行(BNM)の利上げの可能性に言及したことに加え、海外投資家のリング買いのフローも観測されるなか、28日にかけてリングは約5か月ぶりの高値となる4.33台後半まで上値を伸ばした。

今月の見通し

先月発表されたマレーシアの経済指標は概ね良好なものが散見された。なかでも2月の輸出は前年比+26.5%と前月の同+13.6%から大きく上昇。輸出の伸び率は昨年の資源価格の反転から持ち直し、その後も電気・電子部品の輸出額が底堅く推移したことも手伝い、回復基調がより鮮明となった格好。また、2月の鉱工業生産も同+4.7%とまずまずの内容となり、昨年の1・2月と比較しても強い結果を示した。さらに、3月の消費者物価指数(CPI)は同+5.1%と強い数字。中央銀行が3月に発表した今年のインフレ率も+3.0~4.0%と上方修正されており、一部ではマレーシア中銀の利上げを見込む向きもある。かかる状況下、足許のマレーシアのファンダメンタルズは総じてリング買いをサポートするものと思われる。

加えて、昨年12月にBNMから導入された輸出代金の一部リング転や国内商取引に係る外貨決済の禁止等の新規規制が、為替市場でのリング買い意欲を相応に喚起、リング売り圧力の緩和に一定の効果を及ぼしているものと考えられる。

一方、外的要因に目を移すと強弱材料が混在。まず、欧州の政治状況や北朝鮮問題等不確定要素が多いことは、概ね新興国通貨の重石となりそうだ。

さらにトランプ大統領は、「ドルは強すぎる」と発言するも、米国の大型減税に対する期待感は再び高まっており、短期的にはどちらかと言えばドルが強含むシナリオが想定しやすく、外的環境はドル上昇やや優勢と考えられる。

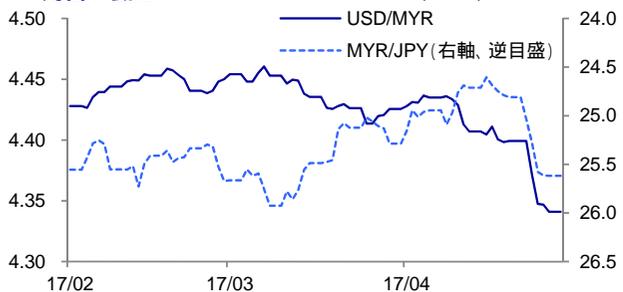
上記の材料の他、底打ち感の見られる原油価格の動向や中国からのマレーシアへの直接投資の強まり等を踏まえると、今月のリングは底堅い稲動きを予想する。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
 1. 夜掃除をすると不幸になる
 「幸せを掃き出してしまふ」という言い伝えです。
 2. 数字の4を忌み使わない
 「中華系では「死」と発音に通じる「四」を避け、建物でも4階は「3A階」と表記されたりします。
 3. 夜爪を切らない
 「これは「寿命を縮める」と言われています。日本の「親の死に目に会えない」とは少し違いますね。
 4. 正月に掃除をしてはいけない
 「1.と同じココロです。大晦日のうちに済ませましょう。
 5. 本の上に座らない
 「本は読むもので、座るものではない。頭が悪くなるぞ！」という子供への教育です。日本と同じですね。
 6. 食事後に食器をほったらかしにしない(乾かさない)
 「インド系社会では、食事後にすぐ食器を洗わないと「おまんまにありつけなくなる」と言われています。
 7. ご飯(お米)は残さず食べる
 「食べ物を粗末にしないように、親が子供に「米粒を残すと、その数だけ未来のお嬢さん(orお嫁さん)がニギビだらけになるぞ！」と教育するそうです。言い回しは異なりますが、私も子供の頃に祖母からこっぴどく注意されたことを思い出しました(以降40年間、遵守しています)。日本では、戦後を生きた人達から、こんな話を聞くことは少なくなったかもしれませんが。以上ですが、皆様がマレーシアに共感を感じて頂けると幸いです。(マレーシアみずほ銀行 関上)

為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	輸出(前年比)	2月	15.1%	26.5%	13.6%
4/5	輸入(前年比)	2月	19.5%	27.7%	16.1%
4/5	貿易収支(MYR)	2月	7.19b	8.71b	4.71b
4/11	鉱工業生産(前年比)	2月	6.1%	4.7%	3.5%
4/19	消費者物価指数(前年比)	3月	5.2%	5.1%	4.5%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13100 ~ 13600
IDR/JPY 0.80 ~ 0.86
JPY/IDR 116.00 ~ 125.00

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

先月の為替相場

4月のドルルピアは、13245～13350のレンジでの取引となり、下に行って来いの展開。引き続き、月中値動きが約100ポイントと小幅レンジの推移が継続した。

月前半、13320近辺でスタートしたドルルピアは、月前半は13310～13350と狭いレンジ取引にて推移。3日発表されたインドネシア3月CPIは前年同月比+3.61%と前月を下回った。

7日取引時間後に発表されたインドネシア3月外貨準備高が、1218億ドルと前月比+19億ドル、5年7か月ぶりの高水準に達すると、翌週10日には、海外からの旺盛な資金流入を受け下落、13日には、一時13245をつける場面もあった。

その後、17日発表されたインドネシア3月貿易収支が、12億ドルの黒字となったが、19日に控える首都ジャカルタ特別州知事選の決選投票の不透明感から、ルピアがやや売られ、上昇。19日同選挙にて、ジョコ大統領が所属する最大与党の党首民主党が支持する現職バスキ氏が敗北すると、現政権への影響が懸念され、翌20日には13340近辺まで上昇したが、影響は限定的であった。

月末にかけて、特段の材料なく、4月21日現在(終値)、13200近辺での取引となっている。

19・20日に行われたインドネシア中央銀行の月例会合では、国内の経済回復を後押しする一方、米の金融政策など国内外のリスクに配慮する必要がある、として6か月連続で政策金利を据え置いた。

今月の見通し

今月のドルルピアは、引き続き、ルピア堅調地合いの中、メインシナリオとして、13250～13350をコアレンジとした狭いレンジ取引を予想する。

北朝鮮を中心とした地政学リスクの上昇、首都ジャカルタ特別州知事選の決選投票における現職の敗北等、ルピアへのネガティブ材料はあるものの、貿易黒字の恒常化によるドル売りフローの増加や、海外からの旺盛な資金流入に支えられ、ルピアは、堅調な展開が続いている。

引き続き、上記の流れが継続することで、ルピアは堅調な展開を予想する。

今月は、インドネシアでは、毎月発表の経済指標に加え、1～3月期GDP・国際収支の発表が予定されている。GDPは5%台回復となるか(2016年10～12月期:前年比+4.94%)が注目されるほか、為替需給を確認する意味で、経常収支は赤字幅が2016年10～12月期と同様に縮小しているか(2016年10～12月期:18.1億ドルの赤字)、2016年10～12月期に赤字に転落した証券投資額(3.9億ドルの赤字)がどの程度回復しているかに注目している。

一方で、上述の地政学リスクの高まり等を勘案すれば、リスクオフからのルピア安の可能性が幾分上昇している点には注意が必要だ。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』
これは、現地スタッフから聞いた、インドネシアでポピュラーなことわざです。

①Ringan sama dijinjing, berat sama dipikul
(軽ければ一緒に手に提げ、重ければ一緒に肩に担ぐ)
意味:一緒にやればもっと易しいということ

②Biar anjing menggonggong, kafilah tetap berlalu
(犬が吠えても、隊商は進む)
意味:困難があっても前進しなければならない

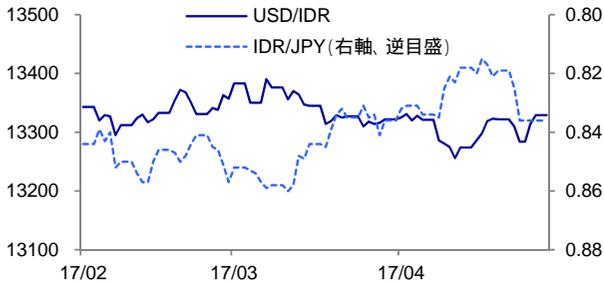
③Maksud hati memeluk gunung apa daya tangan tak sampai
(山を抱きたいが手が届かぬ)
意味:やりたいことがあるのだがやれないこと

④Sedia payung sebelum hujan
(雨が降る前に傘を用意すれば良い)
意味:何か起きる前に完璧に準備すること

日本のことわざにあてはめようと試みましたが、自身の語彙力の限界からか、意外と難しいですね(笑)。

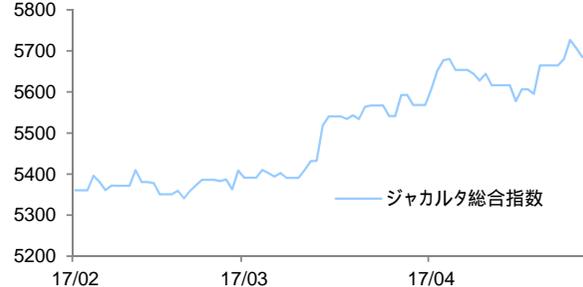
為替の動き

(資料)ブルームバーグ



株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI(前年同月比)	3月	3.80%	3.61%	3.83%
4/7	外貨準備高(USD B)	3月	-	121.8	119.9
4/17	貿易収支(USD M)	3月	1,298	1,234	1,260
4/17	輸出(前年比)	3月	12.20%	23.55%	11.51%
4/20	BI 7daysリバースレボ金利		4.75%	4.75%	4.75%

(資料)ブルームバーグ

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 49.40 ~ 51.00
 PHP/JPY 2.17 ~ 2.25

マニラ支店 樋上 陽一

先月の為替相場

ドル/ペソ(オンショア・インターバンク市場)為替相場は、1ドル=50.16ペソで取引開始。
 月初は50ペソ前半で揉み合い。米3月雇用統計、米中首脳会談というイベントを前にして、為替市場の参加者は様子見であった。

一方、ドル/ペソ為替相場の膠着ぶりとは反対にフィリピン株式相場(PSEI)は動意づくことに。
 今年1月中旬から続いていた7200~7400ポイントのレンジ相場を4日に上抜けすると、年初来高値を更新しながら7600ポイント台へ上昇。

外国人の投資家のフィリピン株売買動向も週次ベースで3か月ぶりの買い越しとなり市場センチメントが改善。

米国がシリアを爆撃した7日は、リスク回避のドル買いが強まり、ドル/ペソ為替相場は一時1ドル=50.225ペソまで上昇。
 しかしながら地政学リスクが一服し、その後、米中首脳会談の警戒感が後退したこと、前述のとおり株式市場が底堅さを見せたこともあり、取引終了にかけてペソは買われ、1米ドル=50.08ペソでクローズして米3月雇用統計を向かえた。

米3月雇用統計明けの10日はペソ大幅高となった。節目とみられていた1ドル=50ペソを大幅に割り込むと、フィリピンの連休を前に、ドル買いポジションを解消する取引が活発化し、12日には一時1ドル=49.40ペソまでペソ高が進んだ。

月末に掛けては、まずドル/ペソ下落の反動からくる自立反発的な動き、実需のドル買いフローにドルペソは支えられ、フランス大統領選挙第一回投票や、北朝鮮の地政学リスクを意識したリスクオフのドル買いが見られた。
 地政学リスク一服後は、米金利上昇に支えられてドル/ペソは強含み、50ペソ手前までドルが買い戻された。

今月の見通し

先月大幅にペソ高が進んだ背景には、年初よりアジア通貨ではペソのみが対ドルで独歩安となる中、フィリピン中銀がペソ安を執拗に防衛。

相場に膠着感が漂う中、株式市場が年初からのレンジを上抜けし、市場センチメントが改善したところに米3月雇用統計が無難に通過したことに加え、連休前の投資家のポジション調整が大幅なペソ高を演出。

他のアジア通貨対比での水準感、相場の膠着感からの脱却する上で、あく抜けを必要としていた中でのペソ高であったと解釈している。

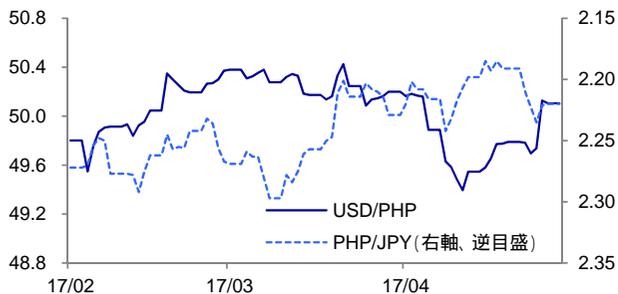
フィリピン統計局は2016年のGDP成長率を+6.9%に上方修正(速報+6.8%)。
 アジア開発銀行は最新の見通しで2017年GDP成長率見通しを+6.4%、東南アジアで前年対比減速はフィリピンのみながら、引き続き高い成長率維持との評価。

フィリピン2月輸出額は前年比で+11.0%の伸びを記録、市場予想対比ではビハインドだったものの、前月の伸び率が同+22.5%から同+24%に上方修正された。
 またフィリピン2月貿易収支は前月対比で赤字幅が減少となり、一部調査機関では、2017年GDP成長率予想を上方修正する動きもあり、市場センチメント改善のサポート材料となっている。
 一方、今後のインフラ投資促進による輸入増加も見込まれており、その影響を見極める必要はありそうだが。

相場のダイレクションはドル高ペソ安を予想。
 リスクオフ、米金利先高観は材料としては相反するものだが、何れにしてもペソ売り材料と思われる。
 市場センチメントの改善によるペソ買いは期待できるが、ペソ売りバイアスが上回りそうだ。ドル/ペソの調整は短期で終了したと思われる。
 早晚、1ドル=50ペソ台の回復、1ドル=51ペソへのトライがあってもおかしくはない。

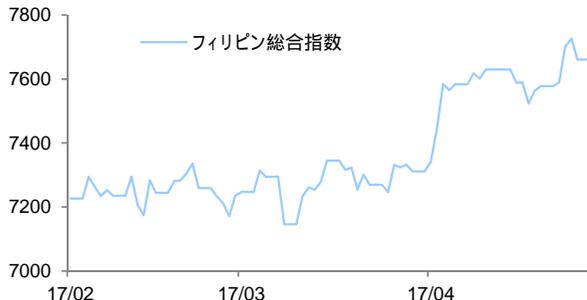
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記ご参照

(資料) ブルームバーク
 期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 62.80 ~ 65.50
INR/JPY 1.65 ~ 1.79

アジア・オセアニア資金部 田川 順也

先月の為替相場

【4月の米ドル/インドルピーは上値を切り下げる展開だった】

64.79レベルで当月の取引をスタートしたドル/ルピーは当初はロシアで起こった爆発事件に伴ったリスク回避のドル買いや、6日に予定されていた印金融政策決定会合に向けたポジション調整的なルピー売りに押される流れに高値となる65.17を超える展開。

金融政策決定会合では政策金利であるレポレートこそ据え置かれたが、リバースレポ引上げ及びMSFレートの引き下げが(金利コリドーの縮小)行われ、声明ではインフレについて「upside risk」とし、2月に続く強気な中銀スタンスが確認されることとなった。市場参加者の間では利下げ予想が一気に払拭され、将来的な利上げについても話題に上がるとルピーは1年8か月ぶりの水準となる64.16近辺まで買われる。

ただしその後は下値追いつとはならず、64.50を挟んで方向感の出ずらい展開。終盤にかけフランス大統領選挙を控えていることから動きづらい相場が続く。

月末にかけてはフランス選挙結果を好感、北朝鮮の創軍日も無難に乗り越えたと世界的にリスク選好的な動きが先行。同時に良好な決算からインド株式相場が過去最高値を更新するのを横目にルピーも買われ、ドル/ルピーは直近の安値を更新し、64を割り込んだ。27日執筆時点で64.11レベルでの推移となっている。

【4月のインドルピー/円は下落後、終盤にかけて上伸した】

1.72レベルで当月をオープンしたルピー/円は既述の印政策決定会合後に1.73を超えるルピー高をつけるも、その後は地政学リスクやトランプ大統領がドル高をけん制する発言をすとドル円が108円半ばまで円高進行する動きにルピー/円も当月の安値となる1.68割れを示現。ただし、終盤にかけて全面的なリスクオンムードとなると1.74超まで急伸し、27日執筆時点で1.73レベルで取引されている。

今月の見通し

【5月の米ドル/インドルピーは上値の重い展開を予想】

4月のインド中銀会合ではリバースレポ金利が引き上げられた。背景には過剰流動性の吸収という面も勿論あるが、物価に着目している部分が大きいと想定される。卸売物価については5.7%、手元で計算したコアCPIは4.9%となっており、各種メディアで報道されるCPIについては下段に記載の通り3.8%と4%を下回る結果となっており、悲観的な意見も聞かれるものの、インド国内物価については想定以上に強い可能性が出てきている。これを裏付けるように中銀は物価見通しを“upside risk”とし、今年度下半期のCPI予想を5%としている。去年の12月、今年の2月と市場予想は利下げ方向が過半を占めていたが、中銀に強気スタンスを見せられ、目先の予想を転換せざるを得ない市場参加者が多い状況である。

一方でアメリカについては4月に大統領からドル安と低金利を好むといった直接的発言が飛び出している。足許では税制改革、先般見送られたヘルスケア案の再考等、政策期待に対して俄かに期待が高まる展開も十分に想定されるが、為替市場でドルが過剰に高くなる場面では同氏や側近から上述のようなドル高をけん制するような発言が出てくることによって上値を押さえるような展開が容易に想定される。

このことから基調としてドル/ルピーは上値の重い展開を想定している。

一方で、前月の本欄と同じ締めくりになるが、直近のドル/ルピーは2015/8以来の水準まで足早に下落した。スピード調整的な局面については十分に視野に入り、リスクとして考えておきたい。

今月のつづやき(現地からの声)

『当地のことわざ、迷信』

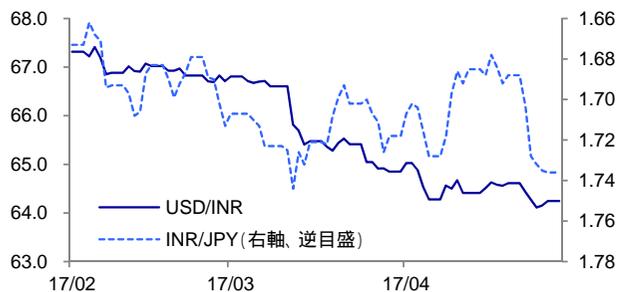
お見合いの相手を占星術で親が決めてしまうように、こちらの人々は迷信を実生活に結び付けている傾向が強いように思えます。

こちらのスタッフにヒアリングをしたところ、『気をつけよ編』・・・道中、猫が横切ったら悪運が去るまで暫し停止、または引き返すべし。『してはいけない編』・・・火曜日、土曜日に爪は切るべからず、木曜日と土曜日は髪を洗うべからず、生理中の女性は台所に立つな/お寺に入るべからず『単なる迷信』・・・家の前でカラスが鳴くと来客あり、商談中にくしゃみをした人間がいるとその話は流れてしまう。などなど。

背景が宗教(主にヒンドゥー)の教えからくるものも多いかと思いますが、地方に行くとも迷信に支配されて生活している人々も多くおり、不吉な存在とみなされた未亡人の後追い自殺(時には強制)など、悪しき習慣へと繋がるものも存在します。都市に住む若い世代は日本人のように迷信は迷信と思う派が大多数のようですが、時代の流れとともに悪い風潮は消え、彼ら自らが誇りに思える魅力に満ちた『神秘的な国、インド』へ変化を遂げて欲しいと願ってやみません。

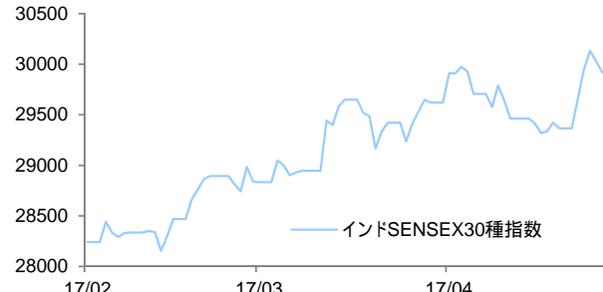
為替の動き

(資料) ブルームバーク



株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



先月の注目イベント

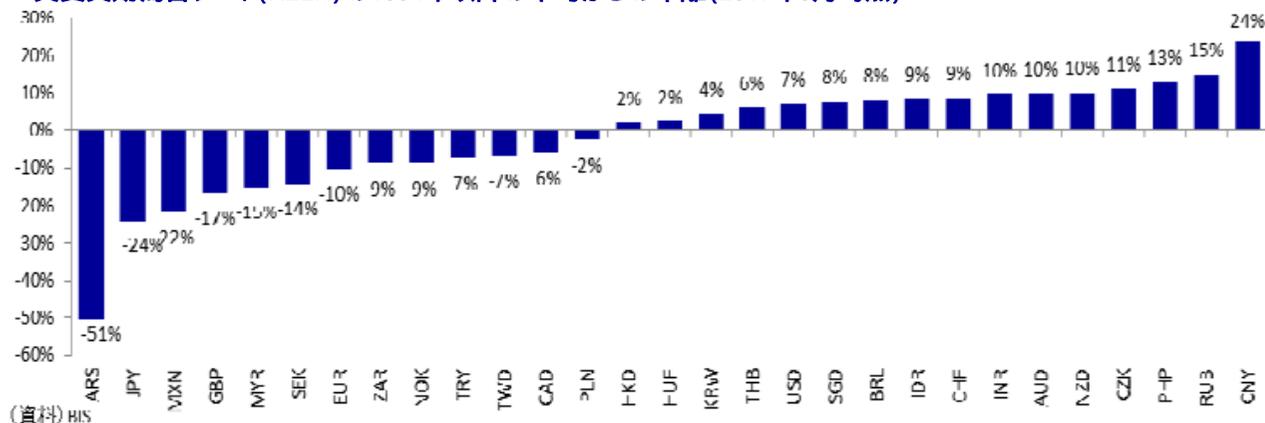
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	日経インドPMI製造業	3月	-	50.3	50.7
4/6	日経インドPMIサービス業	3月	-	50.1	53.2
4/6	RBIレポレート	-	6.25%	6.25%	6.25%
4/12	消費者物価指数(前年比)	3月	3.94%	3.81%	3.65%
4/12	鉱工業生産(前年比)	2月	1.30%	-1.20%	3.30%
4/13	輸出(前年比)	3月	-	27.6%	17.5%
4/13	輸入(前年比)	3月	-	45.3%	21.8%

為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2016年末	2017年3月末	騰落率	株式市場	2016年末	2017年3月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	19762.6	20940.51	6.0%	-
日本	USD/JPY	116.96	111.49	-4.7%	日経平均株価	19114.37	19196.74	0.4%	5.4%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0517	1.0895	3.6%	ドイツDAX指数	11481.06	12438.01	8.3%	8.3%
英国	GBP/USD	1.234	1.2951	5.0%	ロンドンFTSE100指数	7142.83	7203.94	0.9%	-3.9%
豪州	AUD/USD	0.7208	0.7488	3.9%	S&P/ASX200指数	5665.8	5924.064	4.6%	0.6%
カナダ	USD/CAD	1.3441	1.3653	1.6%	S&Pトント総合指数	15287.59	15586.13	2.0%	0.4%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.945	6.8935	-0.7%	上海総合	3103.637	3154.658	1.6%	2.4%
香港	USD/HKD	7.7559	7.7784	0.3%	香港ハンセン	22000.56	24615.13	11.9%	11.6%
インド	USD/INR	67.9238	64.2462	-5.4%	インドSENSEX30種	26626.46	29918.4	12.4%	18.8%
インドネシア	USD/IDR	13473	13329	-1.1%	ジャカルタ総合	5296.711	5685.298	7.3%	8.5%
韓国	USD/KRW	1205.83	1137.65	-5.7%	韓国総合株価	2026.46	2205.44	8.8%	15.4%
マレーシア	USD/MYR	4.4862	4.341	-3.2%	ブルサマレーシアKLCI	1641.73	1768.06	7.7%	11.3%
フィリピン	USD/PHP	49.6	50.105	1.0%	フィリピン総合	6840.64	7661.01	12.0%	10.9%
シンガポール	USD/SGD	1.4468	1.397	-3.4%	シンガポールST	2880.76	3175.44	10.2%	14.2%
台湾	USD/TWD	32.326	30.21	-6.5%	台湾加権	9253.5	9872	6.7%	14.2%
タイ	USD/THB	35.835	34.591	-3.5%	タイSET	1542.94	1566.32	1.5%	5.2%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2017年3月時点)



実質GDP成長率

	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2017Q1	2015	2016
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.0	0.9	0.8	1.4	3.5	2.1	0.7	2.6	1.6
日本*	0.6	-1.0	1.9	2.2	1.2	1.2		1.2	1.0
ユーロ圏	1.9	2.0	1.7	1.6	1.8	1.8		2.0	1.8
英国	1.8	1.7	1.6	1.7	2.0	1.9	2.1	2.2	1.8
豪州	2.4	2.5	2.5	3.1	1.9	2.4		2.4	2.5
カナダ*	2.3	0.5	2.7	-1.2	3.8	2.6		1.0	1.4
エマージングアジア									
中国	6.9	6.8	6.7	6.7	6.7	6.8	6.9	6.9	6.7
香港	2.3	1.9	1.0	1.7	2.0	3.1		2.4	1.9
インド	8.4	6.9	8.6	7.2	7.4	7.0		7.9	
インドネシア	4.8	5.2	4.9	5.2	5.0	4.9		4.9	5.0
韓国	3.0	3.2	2.9	3.4	2.6	2.4	2.7	2.8	2.8
マレーシア	4.7	4.5	4.2	4.0	4.3	4.5		5.0	4.2
フィリピン	6.2	6.5	6.8	7.0	7.0	6.6		5.9	6.8
シンガポール	2.1	1.3	1.9	1.9	1.2	2.9	2.5	2.0	2.0
台湾	-0.7	-0.8	-0.2	1.1	2.1	2.9	2.6	0.7	1.5
タイ	3.0	2.7	3.1	3.6	3.2	3.0		2.9	3.2

(注) インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

失業率

	16/09	16/10	16/11	16/12	17/01	17/02	17/03	2015	2016
	(%)							(%)	
先進国									
米国	4.9	4.8	4.6	4.7	4.8	4.7	4.5	5.3	4.9
日本	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	3.4	3.1
ユーロ圏	9.9	9.8	9.7	9.6	9.6	9.5		10.9	10.0
英国	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7		5.4	4.9
豪州	5.6	5.6	5.7	5.8	5.7	5.9	5.9	6.1	5.7
カナダ	7.0	7.0	6.8	6.9	6.8	6.6	6.7	6.9	7.0
エマージングアジア									
中国	4.0			4.0				4.1	4.0
香港	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.3	3.4
インドネシア						5.6	5.6	6.0	5.6
韓国	3.9	3.8	3.6	3.5	3.6	4.0	3.7	3.6	3.7
マレーシア	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5		3.2	3.5
フィリピン		4.7			6.6			6.3	5.5
シンガポール	2.1			2.2			2.3	1.9	2.1
台湾	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
タイ	0.9	1.2	1.0	0.8	1.2	1.1	1.3	0.9	1.0

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

消費者物価上昇率

	16/10	16/11	16/12	17/01	17/02	17/03	17/04	2015	2016
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	1.6	1.7	2.1	2.5	2.7	2.4		0.1	1.3
日本	0.1	0.5	0.3	0.4	0.3	0.2		0.8	-0.1
ユーロ圏	0.5	0.6	1.1	1.8	2.0	1.5	1.9	0.0	0.2
英国	0.9	1.2	1.6	1.8	2.3	2.3		0.0	0.7
豪州								1.5	1.3
カナダ	1.5	1.2	1.5	2.1	2.0	1.6		1.1	1.4
エマージングアジア									
中国	2.1	2.3	2.1	2.5	0.8	0.9		1.4	2.0
香港	1.2	1.2	1.2	1.3	-0.1	0.5		3.0	2.4
インド	4.2	3.6	3.4	3.2	3.7	3.8		5.9	5.0
インドネシア	3.3	3.6	3.0	3.5	3.8	3.6		6.4	3.5
韓国	1.5	1.5	1.3	2.0	1.9	2.2		0.7	1.3
マレーシア	1.4	1.8	1.8	3.2	4.5	5.1		2.1	2.1
フィリピン	2.3	2.5	2.6	2.7	3.3	3.4		1.4	1.8
シンガポール	-0.1	0.0	0.2	0.6	0.7	0.7		-0.5	-0.5
台湾	1.7	2.0	1.7	2.2	-0.1	0.2		-0.3	1.4
タイ	0.3	0.6	1.1	1.6	1.4	0.8		-0.9	0.2

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

経常収支

	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2015	2016
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.4	-2.5	-2.5	-2.6	-2.7	-2.6	-2.6	-2.6	-2.6
日本	2.2	2.8	3.1	3.4	3.5	3.6	3.8	3.1	3.8
ユーロ圏	3.0	3.2	3.2	3.3	3.5	3.5	3.4	3.2	3.4
英国	-4.6	-4.3	-4.3	-4.5	-4.7	-5.1	-4.4	-4.3	-4.4
豪州	-5.2	-4.8	-5.6	-3.6	-3.7	-2.4	-0.9	-4.7	-2.7
カナダ	-3.0	-3.3	-3.4	-3.4	-3.5	-3.7	-3.3	-3.4	-3.3
エマージングアジア									
中国	2.9	2.7	2.8	2.5	2.4	2.4	1.8	2.8	1.8
香港	2.7	3.2	3.3	3.9	4.5	4.3	4.5	3.3	4.5
インド	-1.3	-1.1	-1.1	-1.1	-0.8	-0.5	-0.5	-1.1	-0.5
インドネシア	-2.5	-2.2	-2.1	-2.1	-2.2	-2.1	-1.7	-2.1	-1.7
韓国	7.0	7.6	7.7	7.9	7.9	7.2	7.0	7.7	7.0
マレーシア	2.7	2.5	2.9	2.4	1.9	1.9	2.0	2.9	2.0
フィリピン	4.0	3.3	2.5	2.1	1.1	1.0	0.2	2.5	0.2
シンガポール	20.1	18.9	18.1	17.2	18.8	19.5	19.0	18.1	19.0
台湾	13.2	14.1	14.4	14.0	14.3	13.7	13.3	14.4	13.3
タイ	5.7	7.2	8.1	10.2	11.0	11.9	11.4	8.1	11.4

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.75 - 1.00	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2017/3/15	25	2017/3/15	+25bp
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2017/4/27	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2017/4/27	現状維持
英国	バンク・レート	0.25	緩和: 2007/12/6	5.75	2016/8/4	-25	2017/3/16	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2017/4/4	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2017/4/12	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レポ金利	6.25	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/10/4	-25	2017/4/6	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/10/20	-25	2017/4/20	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.25	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/9	-25	2017/4/13	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/7/13	3.00	2016/7/13	-25	2017/3/2	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2017/3/23	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2017/3/29	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートを7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行